

アセンション BOOK 4

天の川銀河の物語 NO4 2013 年 12 月

Peace of Galactic Cluster

天の川銀河の物語 4

天の川銀河の生命の水



天の川銀河の生命の水 目次

○第1章 みずがめ座の危機

○第2章 フォーマルハウト星の秘密

○第3章 水瓶座の女神達

○第4章 くじら座の秘密とうお座の再生

○第5章くじら座の魔法使いと創造主

○第6章 ミラ星のドラゴンと悲しき女神

○第7章 豊かさゆえに墮落した星の民

○第8章 うみへび座の王様と息子たち

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界 <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

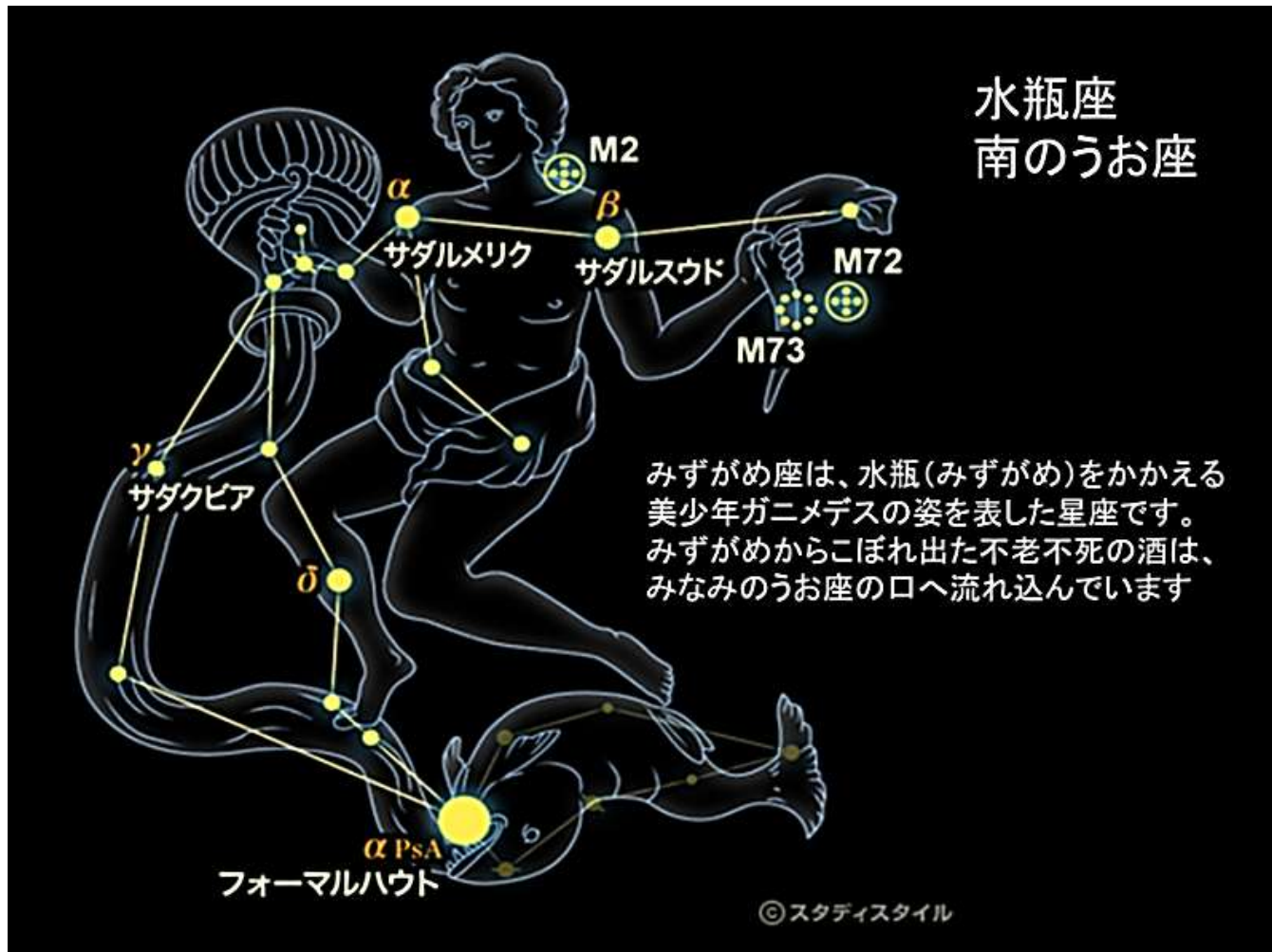
アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

星座のイラストは下記からお借りしました。

88 星座図鑑 自然学習館

http://www.study-style.com/index_seiza.html

第1章 みずがめ座の危機



PART1 みずがめ座の女神からのメッセージ

「時をつかさどる水晶とケンタウルス座の勇者達」に続く新しいシリーズです。
このところ、みずがめ座から呼ばれている感じがして気になっていましたが、先日アチューメントの時に大天使ジョフィエル様が現れ、私達をみずがめ座に連れて行ってくれました。

みずがめ座とその周りの星座は「宇宙の水」と呼ばれる聖域に位置しており、南のうお座、うお座、エリダヌス座と水に関連する星座がたくさんあるところです。
私達が、大天使ジョフィエル様と一緒に、みずがめ座に行くと、みずがめ座の女神のような方が現れてお話をしてくださいました。

「TAKESHI さん、私達はあなたがこの水瓶座に来て下さることを待っておりました。
この場所は、偉大なる根源の創造主から、生命を生み、癒す源である「生命の水」を私達の
天の川銀河に導く場所ですが、様々なネガティブなエネルギーが入り込み、みずがめ座が壊

れそうになっています。

どうか皆さんのお力で、みずがめ座と水に関わる星座達の働きを整え、「生命の水」が、天の川銀河全域に満ち溢れるようにしてください。」

私達が、みずがめ座を見渡すと、水瓶から南のうお座に流れ込んでいる水の流れから、水を奪おうとする者がいたり、大切な水がめにエネルギーをぶつけて水瓶を壊そうとしている存在もいます。

私達は、大天使様にお願いして彼等を追い払い、光のシールドをはってネガティブなエネルギーを一掃しましたが、このみずがめ座を含む水の星座達の働きを整えないと、みずがめ座が壊れて大洪水を起こしてしまいます。

そして、そのあとは、水が枯渇して、天の川銀河が水不足になってしまうようです。

そうならないように、私達の次の仕事は、みずがめ座と周りの星座をしっかりと守る事にしたいと思います。

私達が、みずがめ座に行った翌日、みずがめ座の女神の訪問を受けメッセージをいただきました。

私達の大切な「生命の水」についての話をさせてください。

私達みずがめ座がもたらす水は、この宇宙の創造主が、生命を生み出し、生命を潤すために与えてくれる水です。

それは生命を生みだし育てるプラーナとも呼ばれるものです。

みずがめ座の水瓶の中から流れ落ちた水は、女神アフロディーテ様の化身ともいえる、南のうお座の中に入り、アフロディーテ様の力を借りて、この宇宙の様々な星と生命のもとに運ばれます。

アフロディーテ様は、この宇宙にとっては、必要不可欠な「生命の水」の運び手なのです。

みずがめ座は、「生命の水」を支える大切な星座なのですが、最近、闇のエネルギーによって傷ついた星や生命達が増えるにつれて、みずがめ座から流れ落ちる水が今まで以上に必要になってきました。

星や星に生きる生命を養い、癒し、浄化するためです。

また、闇によって荒廃させられた星は、荒れ果てた大地となり、自らの力で水を生み出す力を失ってしまいました。

星の生命を保つために、私達のもとから流れ出る生命の水が必要なのです。

みずがめ座と南のうお座の創造主と女神達は力を合わせて、できるだけ多くの水を、それらの星に供給しようとして無理を重ねています。

またこの宇宙に生きる多くの生命が、自らの生存と癒しのために、このみずがめ座の「生命の水」を必要としてこの水を奪いに来ます。

私達は、そのことを決して拒むわけではありませんが、私達の水は、天の川銀河の星々と生命に分け隔てなく与えられなくてはなりません。

そして、私達のサポートをしてくれる水の星座達も、以前は自らの星座で、私達と同じように、創造主からの水を受け取ったり、また自分達で「生命の水」を生み出していたのですが、それらの星座の中の主要な星達が、「生命の水」を求める存在達に支配されたり、その星の女神が傷つけられたために十分な働きができなくなってしまいました。

天の川銀河に、十分な生命の水をもたらすために、みずがめ座だけでなく他の星座達の働きも元に戻してあげてください。

ペテルギウスの創造主の働きが元に戻り、また時と空間をつかさどる星々の働きも、今までのように動き始めました。

これから多くの星が、再び生まれ変わり、再創造されていきます。

そのためにも、私達の「生命の水」が必要になるのです。

どうか「生命の水」を守ってください。

PART2 みずがめ座、最初の旅

私は、最近みずがめ座の事が気になり、調べ始めていたところでした。

今夜からの星のツアーは、みずがめ座を中心とした水の星座の働きを整える旅になりそうです。

葵さんもうなずきながら言います。

「私も、みずがめ座の女神からメッセージを受け取りました。

みずがめ座と水に関わる星座達は、この天の川銀河の生命を支えているといっても間違いはないようです。

大切な仕事になりそうですね。」

「私も楽しみだわ、きっとマーメイドや水のフェアリーさん達にも会えるかしら。」遙さんも楽しみにしているようです。

私は、地球から宇宙に旅立つときの出発場所である「ガイアの神殿」に集まりました。この当時は、「レムリアの6大神殿」を作りあげる仕事をずっと行っていましたので、「ガイアの神殿」は私達にとって大切な拠点となっていました。ここに集合して、いろんな打ち合わせをしますが、時として私達の活動を助けてくれる女神やマスター達もこの場所に尋ねてきてくれます。

大地の女神ガイア様も、私達の新たな活動に賛成してくださっています。

「みずがめ座と水の星座達は、地球とも深い関係があります。水の星座達の働きが正常でないと、この地球の水もきっと枯渇してしまうでしょう。そして地球と同じように、水によって生命を支えている星々も、大きなダメージを受けてしまいます。この問題は、水の星座だけでなく天の川銀河全体の星々と生命に関わる大切なことですので、しっかりと取り組んでください。」

問題の重要性を改めて知らされた美緒さんも張り切っています。

「大地の女神ガイア様、「生命の水」の大切さが私にも良く理解できました。星々の生命を支えるために、私達も頑張ります。それにみずがめ座は、ガニメデス様という超美形のイケメンがいると聞いているので、楽しみです。」
美緒さんはつい本音を言ってしまい、葵さんに肘でつつかれています。

私達は、新たに今回の星のツアーのために、新たに部隊を編成することにしました。今回は最初から騎士団同士の戦いはないようですので、前回のシリーズで大活躍した騎士団はすこし休憩させて巨人族のスティクス、魔法使いのマーリン、おおかみ騎士団、ビジョンのわし座騎士団、アルケイデース、そして水の星座という事でウミヘビ座騎士団とペガサス騎士団を中心に編成を組むことにしました。もちろん、私のシェンロンであるエルエルひきいるドラゴン達も一緒です。

私達は、「ガイアの神殿」からシェンロンに乗って、光の通路をみずがめ座まで作り、宇宙の中を移動していきます。今日はいつにもまして、星々の輝きがきれいです。私達は、みずがめ座の女神に誘導されて、みずがめ座の中心ともいえるサダルメリク星に入りました。サダルメリク星は自然が豊かで、美しい海や川もありまるで地球と同じような星に見えます。

PART3 サダルメリク星の小人の村

私達は、少しシェンロンに乗って星の様子を見えています。
すると美緒さんが湖の近くで、小人達の村を見つけたようです。
私達が、小人達の村にはいると、数名の小人達が一生懸命に石版に文字を掘っています。
現在の惨状を、ほかの星の皆さんに伝え、助けを求めようとしているようです。
私は、その石板を受け取り、騎士団に翻訳してもらいました。

「私達は、サダルメリク星に住むホビットの一族で、この星の水を見守っています。
みずがめ座は天の川銀河に、大切な水をもたらし、星と星に生きる生命達を育てています。
最近、水を必要とする星や人達が増えすぎて、みずがめ座のひずみが大きくなり、みずがめ座が壊れそうです。

多くの存在達が、水を必要としているので、みずがめ座が、あえて亀裂を作り、多くの水を流していますが、このままでは、みずがめ座が持ちません。
中には、このみずがめ座の水を奪う為に争いを起こす人もいます。
また、星の人々を困らせるために、有害なエネルギーを、大切な水の中に混ぜようとする存在もいます。
どうか、みずがめ座と「生命の水」を守ってください。」

私達が、騎士団を連れて小人達の村に来た姿を見て、多くの小人達が喜んで迎えてくれました。
私達に果物を差し出し、友好を深めようとする可愛い小人達もいます。

遥さんが果物をうけとり、挨拶をします。
「皆さん、このみずがめ座がとても大切な星々である事は私達も良く知っています。そして、皆さんが困っている事も分かりました。
私達は、その事を解決するために、この星に来たのです。
どうか安心して下さいね。」
小人達は大喜びで、私達を迎えるためにパーティの準備をしているようです。

パーティの準備は、小人達と「宇宙の光」の女性達にまかせて、私はみずがめ座の対応策について話をするために、みずがめ座のマスターに出てきてもらいました。
マスターはやはり、美少年ガニメデスのようなのですが、ちょっとお酒の飲みすぎのせいか、お腹も出て親父モードになっています。
これは、美緒さんに知れたら大変な事になりそうです。

「TAKESHI さんと騎士団の皆さん、皆さんが、いつ来て下さるか楽しみに待っております。

この水瓶座と周りの星座達の重要性は、もうすでにお伝えしてあると思いますが、私が一番心配しているのは、水瓶座の水を必要としている者達が、みずがめ座を荒らしまわっていることです。

私達の目を盗んで、水を大量に奪ったり、水に変なエネルギーを混ぜて、多くの人々に有害な影響を与えようとしている事です。

小人達も一生懸命見守ってくれているのですが、力が違いすぎて、彼らの行いを制止することが出来ないのです。」

「それで、小人達は石板を掘って、助けを求めようとしていたのですね。」

「その通りです。

彼等はとても純粋で責任感が強い者達ですので非常に苦しんでいます。

あなた方が来るのを一番喜んでいるのは小人達でしょう。」

私達に助けてもらうために、一生懸命パーティの準備をしている小人達が、とても愛おしく思えます。

私は、魔法使いマーリンとわし座のビジョンにサダルメリク星と近辺の星の状態を教えてもらいます。

魔法使いマーリンは、星々のエネルギー状態を調べていたようです。

「私が見たところ、みずがめ座自体の波動が落ちているので、その様なネガティブな存在達が自由に出入りできるような状態になっているようです。

その原因はまだわかりませんが、本来であれば、水瓶座は神聖な場所ですので、しっかりと光で守られているはずですが、どうしたのでしょうか。」

元美少年のガニメデスもうなずきながら言います。

「その通りです。

以前は、この水瓶座には光が満ち、その様な存在は近づく事も出来ませんでした。

ところが何時の頃からか、闇のエネルギーに影響を受けたとしか思えない出来事が起こるようになって、私達も困っているのです。」

わし座のビジョンも私に報告してくれました。

「やはりマーリンさんが言うように、サダルメリク星や周りの星々に、おかしい連中やエネルギー体がたくさん入り込んでいます。

先ず彼等を排除し、みずがめ座自体を綺麗に保たなければだめでしょう。」

私達は、みずがめ座の最初の行動として、光の通路を作りそこを中心とした光のシールドでみずがめ座を覆う事にしました。

そしてみずがめ座の中を詳しく調べ、「生命の水」を奪おうとしている者達を排除します。

小人達は、パーティの準備が出来たようです。

私達と仲間達は、小人達と共に出会いを喜ぶ食事の席に着きます。

小人族の長老が私達に感謝の言葉を述べてくれました。

遥さん達はもう小人達とすっかり仲良しになり、小人達の伝統的な料理なども教えてもらったようです。

「地球の皆さん、そして天の川銀河の素晴らしい騎士団や魔法使いの皆さん。

私達は、皆さんが来てくれた事を大変うれしく思っています。

このような素晴らしい皆さんのお力をお借りする事が出来れば、きっとみずがめ座も昔のようになるでしょう。

私達も、一生懸命頑張りますので、どうかよろしくお願いします。」

私達は小人達が作ってくれた果実酒で乾杯です。

遥さんは、小人とも話が出来るようで、小人の子供達に囲まれて、他の星のお話をおねだりされています。

騎士団達も、このような所でおいしいお酒が飲めるとは予想もしていなかったようで、嬉しそうに楽しんでいます。

おおかみ騎士団は、小人の子供達を乗せてあげて周りを歩き回っています。

おおかみ騎士団は、純粋な心を持っている子供達が大好きなようです。

PART4 みずがめ座のエネルギーを明らかに保つ

私達が小人達とパーティを行っている間にエルエルとシェンロン、ペガサス騎士団、巨人族のスティクスは、みずがめ座の周りを丁寧に調べて光の通路を作っています。

しばらくすると、今私達がいるレベルとみずがめ座全体を繋ぐ光の通路を作って、彼らが戻ってきました。

シェンロンやペガサス達が、自分達の村に降り立つ様子を見て小人族は大喜びです。

巨人族のスティクスが大きい体では、小人達を踏んでしまうので、人間と同じサイズに戻り

ます。

「TAKESHI さん、この水瓶座に光の通路を作りました。

南のうお座のフォーマルハウト星からはじめて、みずがめ座の水の流れに沿ってサダクビア星、水瓶を支える美少年ガニメデスの両肩に当たるサダルメリク星とサドルスウド星へと光の通路を広げ、フォーマルハウト星へと戻る通路です。

次はどうしますか。」

確かに、今迄の世界からするとみずがめ座に輝きが増しています。

「それでは、この光の通路を中心として、あとは魔法を使ってみずがめ座全体を覆うような光のフロアーを作りましょう。

それではみなさん、宇宙に出て、光の通路をさらに広げ、光のフロアーに変えていく手伝いをしてください。

そして、光のフロアーが出来たら、光をみずがめ座と南のうお座に満たしていきましょう。

そうすることで、みずがめ座と南のうお座にネガティブなエネルギーが入らないように、光のシールドを作る事が出来ます。」

私達の話を聴いていた小人達は、あまり理解が出来ていないようですが、すごい事が起きるといって大騒ぎをしています。

皆さんの純真な目が期待でキラキラと輝いています。

シェンロンやわし座の騎士団を中心として、私達の仲間が次々と大空に飛び立っていく姿を見て、小人達は更に大興奮です。

そして、私は、大天使ラジエル様や魔法使いのセントジャーメイン、マーリンの力を借りて、その光の通路を、光のフロアーに変えていきます。

小人達がいるサダルメリク星が、光にあふれて輝き始めました。

みずがめ座の女神達も、皆さん出てきて共に祈りを捧げてくれています。

みずがめ座全体が光で包まれ、輝きを満たしています。

次に行う事は、この光のフロアーを多次元にして、みずがめ座と南のうお座を包み込み、この星座達のさまざまな次元に、闇やネガティブなエネルギーが入らないようにすることです。私達は、光のフロアーを大天使ラジエル様をお願いして、最も高い次元まで押し上げ、そこから一つ一つ次元を光に満たしながら降ろしていきます。

今よりも高い次元のレベルでは問題なく光のフロアーが広がりましたが、現在のレベルと同じ次元に2つのネガティブなエネルギーが見つかりました。

サダルメリク星に、この生命の水を必要以上に欲しがる存在がいたのです。
自分の孤独感や苦しみを、「生命の水」で癒そうとして、ここに居座っているようです。
私は、彼のもとに降り立ちここで何をしているのか尋ねました。

「私は、遠くにある星からここに流れ着いてきたのです。
私達の星は、他の星から来た者達によって襲われ、多くの者が死んでしまいました。
星の樹木も燃え堕ち、荒れ果てた大地だけが残っています。
私達は、自分達の星では、もうすでに生活できないと考え、星を出てさまよっていました。
そして私は、幸いにも水が豊かなこの星にたどり着いたのです。
私は水が欲しいのです。
そして私達の星の者へこの水を送ってあげたいのです。」

彼の体はもうすでに気を失い、スピリットに黒い闇の渦巻がつながっていました。
私達は、彼から闇の渦巻を切り離し、彼に光を送ります。
彼は、うれしそうな顔をして光の世界へと戻っていきました。

またサダルメリク星の横にある、サダルスウド星には、この星自身のマスターが、生命の水を自分の思うままに支配しようとして、闇に落ちている姿がありました。

その姿をみたまずがめ座の女神が悲しげに言います。
「私達、みずがめ座のマスターの中でも、この「生命の水」が創造主から与えられたものであることを知っていながら、この「生命の水」を支配し、困っている者達から利益を得ようとする者達もいるのです。
私達も、注意を行ったのですが、彼らの意識の中には神聖な水を預かっているという意識が失われつつあるのです。
そのような思いが、みずがめ座の中で生まれてしまったために、みずがめ座の波動が落ちていったのかもしれません。」

私達は、癒しの天使達と愛の女神をそのマスターのもとに送り、彼の心を癒すとともに、私が持つ光の遺伝子を彼のハートの中に送り込みます。
そして騎士団達が、彼を闇の渦巻きから切り離しました。
するとマスターは急に目覚めた様子で驚きの声を上げています。

「私は一体どうしたんだ、何をしているんだろう。」
彼は本来の自分の意識に戻ったようです。
みずがめ座の女神は、マスターに今まで彼が行ってきた事を話したようです。
マスターは、自分が違う存在に操られていたことを理解したようです。

しきりに女神に謝っているようです。

PART5 飢えた子供達のスピリットと水瓶座の潜在意識

そこに、わし座のビジョンがやってきました。

「TAKESHI さん、この一つ下の次元で大変なことが起きています。

すぐに来てください。」

私達に緊張が走ります。

もう一つ下の次元にはいると、大変な事が見つかりました。

それは、水瓶から流れ落ちる「生命の水」の源のところに、たくさんのスピリットがいるのです。

それも、飢餓や水不足のために死んでしまった魂達が、のどの渇きや飢餓感のために、光の世界に帰る事ができず、「生命の水」に群がっているのです。

空腹のまま死んでしまった子供の姿をしたスピリットもたくさんいて、可哀そうで涙が出そうになりました。

しかし、この「生命の水」の源流に、これらのスピリットを放置しておくわけにもいきません。

彼等の苦しみや悲しみ、絶望感や孤独感のエネルギーが、「生命の水」の神聖なエネルギーを汚してしまうのです。

「生命の水」は、全ての生命にとって「生きる源」となる水ですが、その水がこのように汚染されてしまえば、多くの生命達が、絶望感や孤独感を持って生きることになります。

このように癒されていないエネルギーが、「生命の水」の水源にたくさん存在する事で、天の川銀河の水の波動が落ち、星々のエネルギーを浄化できずにいたのではないのでしょうか。

そして浄化されていない星々に生きる人々は、自分自身も癒されずに、先ほどのマスターのように闇に堕ちていったのかもしれませんが。

私達は、大天使達に頼んで、この報われないスピリット達を光の世界へと導いてもらいました。

そしてみずがめ座の女神とシェンロンやドラゴン達にお願いして「生命の水」の源を癒してもらいます。

私達も、光のワンドを使って、癒されていないスピリットとこの場所に光を送ります。

遥さんが、光を送りながら、かわいそうなスピリットを見ながら涙を流しています。

「かわいそうな子供達、親からも引き離されて、この場所に助けを求めてやってきたのね
この子達に何の罪もないのに。」

私達は、この場所に集まっていた子供達にスピリットの中で、地球から来たスピリット達も
たくさんいるのではないかと思いました。

地球にとっても飢餓や水不足の問題は、とても深刻な問題なのです。

私達は、さらに下にある次元に向かいました。

ここは、みずがめ座や「生命の水」に関わる星々とマスター女神達、そして星に生きる人々の
潜在意識の世界です。

驚いたことに、この場所は、みずがめ座を支配しようと思う者達の意識や「生命の水」を欲
しがる者達の意識で混沌としています。

それらの意識は、自らが存在するために水を渴望している意識もあれば、この水を使って他
の星や存在を支配しようとしている意識もあります。

そしてこの潜在意識から生み出された重たいエネルギーが、闇の中でうごめく黒い蛇のよう
に、不気味にうごめきながら存在しているのです。

葵さんが、少し苦しそうな顔をしています。

「TAKESHI さん、ここはとても苦しいエネルギーで満ち溢れていますわ。

ここにいるだけで、水を奪い合う人達やこの水を汚して天の川銀河の星々と人々を傷付けた
いというエネルギーがどんどん流れこんできます。」

おおかみ騎士団達も低く唸りながら、葵さんを守るように、エネルギー達をけん制している
ようです。

私は急いで魔法使い達におねがいして光の箱でこのエネルギー全体を囲みます。

そして、シェンロンやペガサス達にお願いして光を浄化してもらうと同時に、私達も光のワ
ンドを使用して光を送ります。

闇のエネルギーが少しずつ消え去り、この場所が明るくなってきます。

みずがめ座の女神も、自分の体から聖なる癒しの水を放ち、私達と騎士団が、汚された水の
影響を受けないように守ってくれています。

大天使ラジエルや大天使ザドギエル、大天使ジョフィエル達が現れて、この闇のエネルギー
を浄化するために神聖幾何学を描いています。

魔法使いマーリン達も、闇のエネルギーによってかけられた呪いから、水の星座達を解き放つために祈りをささげています。

やがて、黒々とした闇のエネルギーが、ずっと消えていきました。
私達も、体の力が抜け、その場所に座り込んでしまいました。

美緒さんが、大きくため息をついています。

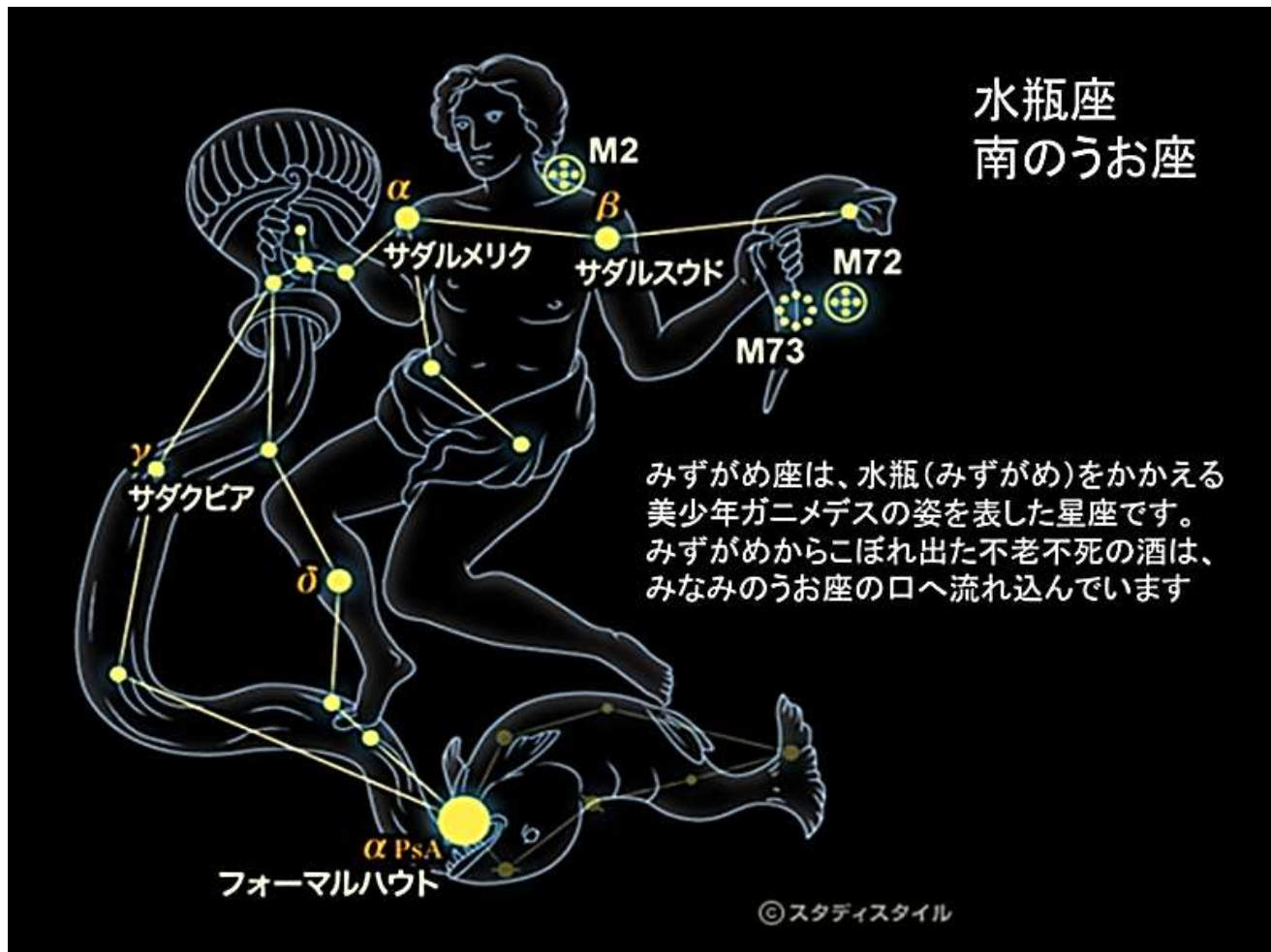
「疲れたね、小人達の村に戻ってひと休憩して美味しい果実酒をごちそうにならないと地球に返れないわ。」

皆さん大笑いしていますが、まさにその通りです。

私達の「生命の水」を巡る最初の星のツアーは、予定よりもはるかに時間を過ぎて終了しました。

もう夜中の2時近く、美緒さんが言うように小人の村で休憩して、地球に変える事にしましょう。

第2章 フォーマルハウト星の秘密



PART1 女神アフロディーテ様と虹のワンド

私達のみずがめ座の旅が始まりました。

先週は、みずがめ座全体を光で包み、みずがめ座が抱える問題をいくつも解決しました。そして、みずがめ座の星々の潜在意識を光で浄化したところで終了しました。

今日からは、一つ一つの星を回っていく事にしましょう。

私達が、みずがめ座に旅立とうとするときに、ガイアの神殿で、奇妙な来客を迎えました。それは7色の神龍に乗った「赤いきのこ」のような存在でした。

今までの女神やマスターと全く異なるその容姿に驚かされました。

そして頭が、ぱっくりと割れて、そこから胞子のようなものも飛び出していきます。

その存在がここに来た理由もよくわからないまま、「生命の胞子マー君」と名前を付けて、一緒にみずがめ座に連れていく事にしました。

私達は、「ガイアの神殿」を出発して、みずがめ座の下にあるフォーマルハウト星へと降り立ちました。

フォーマルハウト星は、この星系でももっとも大きく輝く星ですのできっと創造主様がいらっしゃることでしょう。

南のうお座は、とても特殊な場所にあります。それはみずがめ座から流れ落ちる水をこの南のうお座のフォーマルハウト星が受け止めるのです。

この南のうお座は、女神アフロディーテの化身とも言われています。

私達にとってアフロディーテ様は、植物や生命達の創造を行う豊穡の神であると共に愛と美の神でもあります。

私達は、フォーマルハウト星の神殿に案内してもらい女神アフロディーテ様を呼びだすことにしました。

葵さん、遥さん、美緒さん、そしてみずがめ座の女神達が中心となって準備をしています。神殿の祭壇にお花を飾り、美しいクリスタルも置きました。

葵さん達が、女神アフロディーテ様を呼びだすための祈りをささげています。

周りが霧に包まれたと思うと、そこに背が高い女神が現れました。

女神アフロディーテ様です。

さすがに愛と美の女神だけあって非常に美しい女神です。

葵さん達はその姿を見て大喜びしています。

「TAKESHI さん、そして皆さん、こんなに素晴らしいお招きをいただき大変ありがとうございます。ございます。

名前を呼ばればすぐに出てくるのですが、皆さんが素敵な準備をしてくださっていたので、ずっと我慢をして隠れておりました。

皆さんには、感謝の気持ちを込めて、私から「愛と美をもたらす虹のワンド」をプレゼントさせていただきます。」

その言葉を聴いて葵さん達の興奮はクライマックスです。

喜んで「愛と美をもたらす虹のワンド」を受け取り、お互いに光を送りあっています。

美緒さんは、「これでバッチリ美しくなって美少年のガニメデス様に会わなければ」とはしゃいでいるのですが、美少年ガニメデスが、オジサン体型からダイエットして出てきてくれたらよいのですが・・・。

女神アフロディーテ様は、まず私達に水の星座に関する話をしてくれました。

「私の化身である南のうお座は、この宇宙の大創造主からもたらされた「生命の水」を受け取り、天の川銀河の水の星座達に受け渡す働きがあるのです。
フォーマルハウト星によって受け止められた水は、うお座、くじら座、エリダヌス座、ウミヘビ座等の水に関連する星座の働きによって、天の川銀河全域にもたらされます。

しかしながら各星座に点在する闇の力によってその流れは分断され、「生命の水」は十分にいきわたっていません。
特にくじら座に関しては、とても大きな問題が起きています。

今回の皆さんのお仕事は、水の星座達を回り、闇に堕ちた星を救い出す事です。
そして、「生命の水」を浄化すると共に、その流れを元に戻し、天の川銀河全体に「生命の水」をいきわたらせることです。
私も、常に一緒に回り、皆さんをお手伝いしますので、どうかよろしくお願いします。」

「女神アフロディーテ様、私達もこの水の星座の重要な役割に関しては、理解しております。
少しでも早く、本来の水の星座の働きを取り戻す事が出来るように努力します。」

私達が、女神アフロディーテ様と話している間に、フォーマルハウト星の偵察を行っていた騎士団達が戻ってきました。
わし座のビジョンが報告をしてくれます。
「TAKESHI さん、この星の一部に黒く変色している場所がいくつかあるようです。
おそらくエネルギーが大きくとどまっているようです。」

確かに、星の一部が大きく茶色に変色している所がありました。
かなり闇の力に侵されている様子です。
女神アフロディーテ様にその理由を聞いてみました。

「この原因を作ってしまったマスターは、この星において、水の分配を行ってきたマスターなのです。
彼は、あまりにも職務に忠実であったために、世代交代の時期が来ても、自分の仕事を他者に手渡すことなく、その仕事に執着してしまいました。
そして、この星の水を1人で支配し自分が思ったようにしたいと思い、闇の力に飲み込まれたようです。
本来ならば、彼はこの星の物理世界の上にあるスピリチュアル次元に行って、そこで仕事をする予定になっているのですが、この現実世界に捕らわれてしまっているのです。」

「それは困りましたね。

彼が自発的にこの職務から離れ、次の世界へ移り変わっていく事が出来ればいいのですが。」
美緒さんが、自分にまかせて、と言ってきます。

「私の会社にも、こんなおじさんがたくさんいますよ。
もう年を取ってぼけてきているので、若い人に仕事を譲って引退してくれたらいいのに、上司だからと言って威張って居座っちゃうんですよ。
おかげで、仕事の能率は上がらないし、昨日指示した事を、今日は忘れて違う指示を出すので、仕事が増えるばかりなんです。
こんなおじさんは、おだてあげて引退させるに限ります。」
皆さん美緒さんの言葉に大笑いです

確かに、そのマスターの様子を見ると、周りに怒鳴り散らしています。
近くにいる小人達も困り顔でおろおろしています。
それでは美緒さんを中心として 3 人の地球の女神達で、この問題を解決してもらう事にしました。

美緒さん達3人は、彼の仕事をたたえる作戦をたてて彼の元を訪れました。
彼は、まるで自分自身で作った檻のような物の中に入り、他人との接触を拒んでいるようです。
美緒さん達が女神アフロディーテ様から頼まれて、マスターの仕事をたたえるためにやってきた事を伝え、彼も喜んで私達を迎えてくれました。

癒しの天使達に、祝福の歌を歌ってもらいます。
そして小人達にお願いして、祝宴の準備をしてもらいます。
小人達も、私達が、このマスターを何とかしてくれる事を期待して、喜んで準備をしてくれました。
葵さんが、光のワンドで周りにたくさんの花を降らします。
美緒さんは、マスターに美しい花束を、にっこりと笑って渡します。

遥さんは、いつもの優しい癒し声でマスターの活動をねぎらいます。
女神達で、彼が作った檻の柱のようなものを 1 本 1 本ずつ取り外していきます。
彼は抵抗する事もなく、はすかしそうに様子を見ています。

私が彼のもとに近づき、みずがめ座の女神からもらった虹のワンドを彼に渡し、自らを光で清めてもらいます。
彼の仕事をたたえながら、彼のハートの中に光の遺伝子を満たし、騎士団が闇の渦巻きを切り離します。

彼は、自分が行っている事の無意味さをよく理解していましたが、それをやめる事が出来なかったようです。

私達の来訪を喜び、自分を解放してくれたことに敬意を表し、次の光の次元へと昇ることに決めたようです。

PART2 フォーマルハウト星の光の世界

今まで彼がいた世界は、半ば物理的な次元の世界でしたので、そこを流れる水も水としての実体をもった水でした。

その上にある次元は、「生命の水」のエネルギーを管理する場所です。

私達が、そこに着いた時には、「生命の水」のエネルギーはとても暗く、まるでヘドロのような状態でした。

メンバー達が虹色のワンドを使ってたくさんの光を送りましたので、大分明るくなってきましたが、どこかに大きな問題がありそうです。

しらべてみると、この世界の奥に、とても大きなヘドロの塊があります。

そのヘドロのような塊を溶かしていくと、その中から1人のマスターが現れました。

そのマスターは、地上に残っていたマスターの仲間で、彼が地上に残り続けていたために、1人でこの光の世界に上がって仕事をしていたようですが、汚染され続ける水の浄化やその責務の大きさに、彼自身も飲み込まれてしまい、自らがヘドロのようになってしまったようです。

女神アフロディーテは、ヘドロに満ちたマスターを綺麗にして仕事がきちんとできるようにしてあげました。

これからは、地上から上がってきたマスターと協力して、2人でこのフォーマルハウト星の光の次元を守ることになるようです。

私達は、今日出会った奇妙な存在である「生命の孢子マー君」に、この水の浄化について尋ねてみました。

そしたらマー君は、「僕、やる。僕、やる」といって、頭からたくさんの孢子を吹き出しました。

その孢子のようなものは、どんどん水の中に入り、自己増殖を繰り返しながら、水の汚れを自分の内側に吸着し、汚れをきれいにしていきます。

まるで浄化槽の中にある菌が、ゴミをどんどん溶かしていく様子によく似ています。

後程、この「生命の孢子マー君」の事を、創造主様に聞いたら、生命を創造する担当の創造主が、みずがめ座から流れてくる「生命の水」の浄化のために、マー君を作り出してくれた事を教えてくれました。

マー君は、有機物を分解する働きが強い菌から、特殊な力で生み出されたく、自らの働きを自分の意志で行うようになっているようです。

さすが、創造主が自ら作り出してただけあって、ユーモアに満ち溢れ素晴らしい働きをしてくれます。

私は、思わず日本の海の放射能汚染や海水の汚染もきれいにしてくれるようにお願いしました。

マー君のおかげで、フォーマルハウト星の水はどんどんきれいになっていきます。

この美しく生命力にあふれた水が、この宇宙の全域を満たし始めると、銀河の星もそこに住む生命達も、もっと美しく輝き始めることでしょう。

更に私達は、「生命の水」を守るために、フォーマルハウト星の異常を、わし座の騎士団とメンバーに探してもらいました。

そうすると2か所問題がある所がわかりました。

1 か所は、星の大地に大きなガラスが突き刺さっていて、そこから「生命の水」のしぶきが零れ落ちています。

そして、ガラスの根元から、長い管のようなものが伸びており宇宙空間へとつながっています。

私は不思議に思い、わし座の騎士団にこの管の先を見に行ってもらいました。

すると、一つの荒れ果てた星につながっており、そこに身動きができないような状態で閉じ込められている人達があります。

彼等は、このフォーマルハウト星から送られてくる水で、かろうじて生きているようです。

そのために、このガラスを抜くことは、彼らの命を奪う事にもなりますので、私達はその横に貯水池を作り、その管を貯水池の中に入れ、水が漏れないように工夫しました。

そしてマー君も、この水の中に入り、送られた星のエネルギーを浄化したり、星の生命を助ける働きをするために、その星に送られていきました。

きっと送られていった星の人達はびっくりする事でしょう。

これで、安全にこの管を通して、その星へと水が送られます。

この作業が終了した頃、その星の人の意識が、私達の心に、流れてきました。

「本当に申し訳ありません。

自分達が生きるためには、この水をもらうしかなかったのです。」

私の心は、とても切なくなりました。

この銀河にはまだ、苦しんでいる人がたくさんいるようです。

この貯水池ができあがると私達は、次の傷跡に行きました。

この傷痕は、何かがぶつかった後なのか、大きな傷跡から、星のしずくがたくさん漏れています。

ここは大急ぎで補修しなくてはなりません。

マー君達は、その傷跡に入り、どんどん増殖して、その傷跡を埋めています。

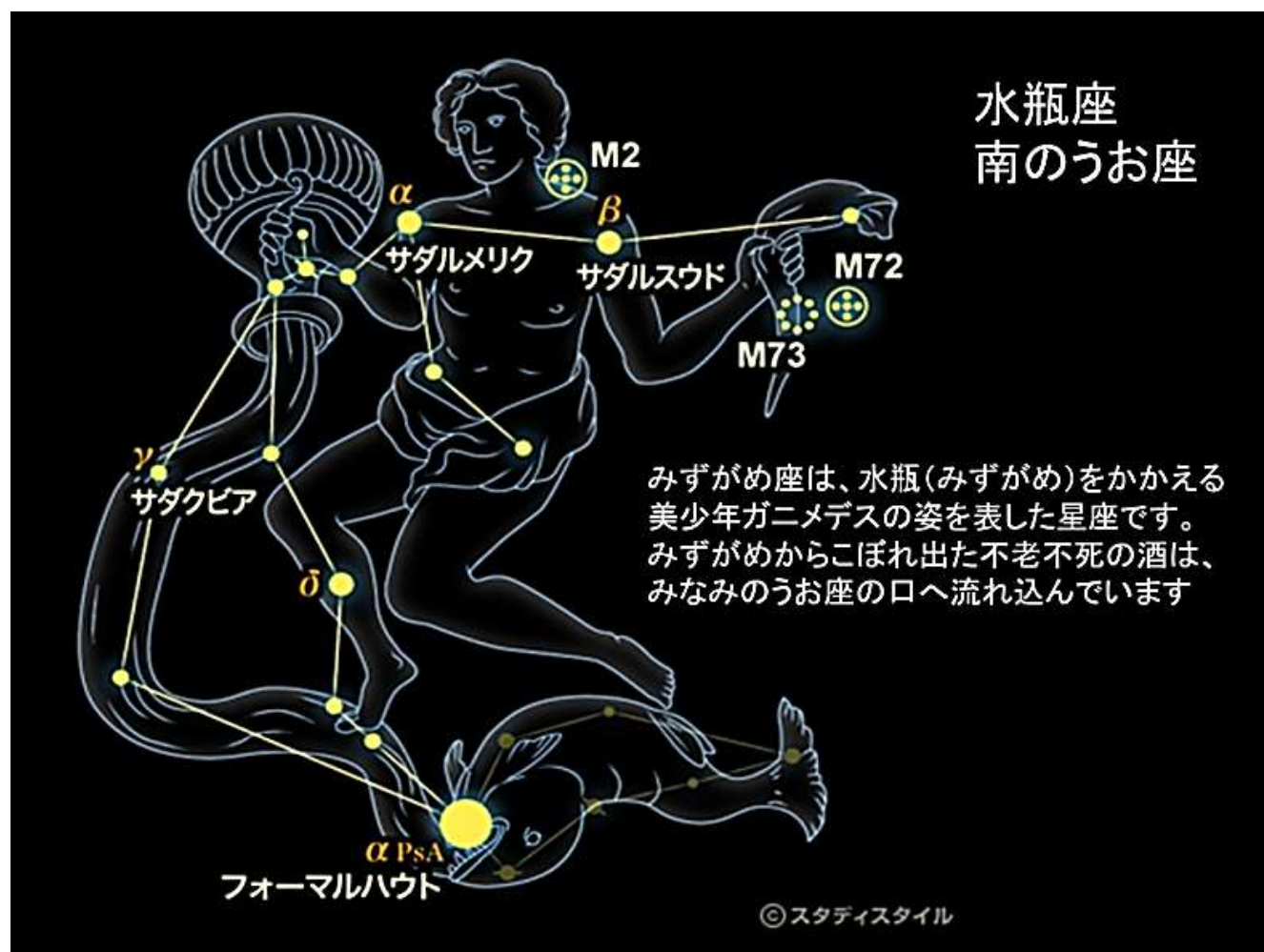
私達は、フォーマルハウト星の上空に上がると、星を取り囲むように、星全体に光を送ります。

フォーマルハウトの星が守られ、これからも、「生命の水」をこの宇宙に送り続けることができるように・・・

次回は、この大切な水瓶を支えるみずがめ座の星々を回ります。

さて、美緒さん達は美少年ガニメデスに会えるのでしょうか？

第3章 水瓶座の女神達



PART1 みずがめ座の再生

星のツアーをとおして、多くのマスターや創造主と出会い、共に仕事をしていく中で、私達の能力も高まり、共に活動できるマスターや創造主達もどんどん広がっていきます。

私達は、天の川銀河の大天使だけでなく、この宇宙全域を守護する大天使のリーダーに呼ばれました。

このリーダーは、私達が天の川銀河はもちろん、それ以外の銀河や宇宙全域で活躍することができるよう、宇宙全域を統括する大天使（ユニバーサル・エンジェル）と自由にコミュニケーションが取れるようにしてくれました。

これで、私達はもっと広範囲な仕事をユニバーサル・エンジェルの力を借りて、行う事ができるようになりました。

今日は、天の川銀河にとって、とても大切な「生命の水」を養うみずがめ座と南のうお座を

守るために、仲良くなったばかりのユニバーサル・エンジェルと呼ばれる大天使を呼び出して光を降ろしてもらいます。

私は、この星域を光のシールドで覆うだけでなく、水を必要とする星や人々には、適切に水が分かち合われるように、フォーマルハウト星に水の分配施設を作りました。

うお座のシンボルであるアフロディーテ様も現れ、水が適切に分かち合われるように、水の管理を行う女神を2名生み出してくださいました。

次の私達の仕事は、この大切な水瓶を支えるみずがめ座の星々に起きている問題を解決して光を高める事です。

私達は、みずがめ座のマスターであるガニメデス様をお呼びしました。

ガニメデス様はゼウス様の寵愛を受けて天に上った美少年として知られている方です。今でもとてもお美しい姿ででてられました。

彼は、みずがめ座の女神のもとで、このみずがめ座を守る働きをしているようです。

「TAKESHI さん、そして地球から来られた美しい女神の皆さん。

この水瓶座に来てくださり大変ありがとうございました。

私達は、みずがめ座の女神達と共に働いておりましたが、様々な問題が起こり、創造主から頂いた「生命の水」をしっかりと管理することができなくて大変申し訳なく思っておりました。

いくつかの異なる次元があり、私達はその場所にはいる事ができない為に、それらの問題の解決を皆さんにお願いすることになりましたので、どうかよろしくお願いします。」

ガニメデスは、前回私達の前に現れたオジサン体型ではなく、まだ二十歳前の若々しい容姿で現れ、「宇宙の光」のメンバー達に恭しく挨拶をします。

メンバー達は、自分達の事を女神と呼び、美しい笑顔を見せてくれるガニメデスに夢中になっています。

私達は、ガニメデスと共に、フォーマルハウト星から水をさかのぼりサダクビア星に入ります。

この星は、水の流れの中にあります。

特定の闇のマスターはいないようですが、多くの水を欲しがる存在達がいるようなので、マザー・クリスタルを活性化してこの星の力を高める事にしました。

マザー・クリスタルは海の中や滝にありそうです。

私達は、いくつかのマザー・クリスタルを活性化して、この星の次元上昇を行いました。

そして次に行った星は、みずがめの取手のところに当たる逆 Y 字の形をした 3 つの星です。この 3 つの星が、宇宙から天の川銀河に降りてくる水を保ち流していく働きをしています。ここのマザー・クリスタルは、川の水を流す水車のような働きをしているようです。

私達はこの 3 つの星を同時に次元上昇させるために、女神アフロディーテと共にマザー・クリスタルを活性化していきます。

PART2 みずがめ座の女神達が戻ってくる。

みずがめ座の逆 Y 字の星達の次元上昇が、終了すると、そこから最初の女神が現れました。メンバーの目には、頭に無限マークがついているようなイメージの女神です。

「私が、ここに現れた事が出来たという事は、みずがめ座の星々が元の次元に戻り、みずがめ座の星々と私達女神が、再び共に活動できる時が来たという事でしょうか？
そうでしたらうれしいのですが。」と女神は尋ねます。

女神が現れるのを嬉しそうに見ていた女神アフロディーテが答えます。

「みずがめ座の女神よ、まさに今、そのことが起きているのです。
私達は、みずがめ座にもたらされる「生命の水」を今まで守ってきましたが、マスター達の墮落や他の星々からの介入で「生命の水」を守る事ができなくなってしまいました。
そして、みずがめ座も次元降下して、私達の手を離れてしまったのです。

しかし、地球から来てくれた TAKESHI さんと地球の女神達の手によって、みずがめ座の様々な問題は解決しました。

みずがめ座は、次元上昇して元の位置に戻り、みずがめ座の女神達も、再びみずがめ座の上に立つことができるようになったのです。」

「それはとても嬉しいことです。
私達、みずがめ座の女神達もみずがめ座と切り離されて途方にくらっていた所です。
TAKESHI さん、そして皆さん本当にありがとうございました。」

みずがめ座の女神はとても明るい表情をして、自分の両手で「生命の水」を救い上げると、その手の平からキラキラと光輝く水がこぼれ落ちていきます。
その瞬間、この水瓶から南のうお座に向かって降りていく水がキラキラと輝き始めました。

「生命の孢子マー君」もその様子を見て、大喜びです。

自分の孢子をその水の中に飛ばして、水の浄化力を高め、「生命の水」が流れていく先を、どんどん浄化するようにしています。

みずがめ座の女神は、マー君の姿を見て驚いていますが、彼が水を浄化する働きをもっていることを知って大喜びしています。

「TAKESHI さん、そして皆さん、私達に本当に素晴らしいプレゼントもしていただいております。

私達は、これからも「生命の水」を使って、この宇宙をどんどん浄化していきます。

それから、出来れば私の姉妹である女神達も、星に戻してあげてくださいね、お願いします。」

私達は、女神からのお願いを実行するために、みずがめ座のガニメデス青年の両肩に当たるサダルメリク星とサダルスウド星へと向かいます。

これらの星は、宇宙の「生命の水」を、水瓶に受け取るための重要な星です。

私達はサダルメリク星につくと、悲惨な光景を目にしました。

サダルメリク星には、この「生命の水」を奪いに来る人達の宇宙船や争いに使った武器、様々な器械などの残骸がたくさん散らばっています。

星の中に流れる「生命の水」は汚れ果て、星も荒涼としています。

きっと「生命の水」を奪い合う人達がここにきて、愚かな争いを繰り返したいたのでしょう。

この星を守っているはずの女神も見えませんが、ガニメデスもこの星が次元降下したために、この星と関われなくなっているようです。

私がいくつもの次元を自由に行き来できる能力を持っていなければ、ガニメデスやみずがめ座の女神達も、この星に降り立つことはできなかったでしょう。

まずこの星のマザー・クリスタルを探します。

ひとつは、星の奥深い洞窟のようなところに隠されていたので、クリスタルのために神殿を立てクリスタルの浄化と活性を行います。

またもう一つは、汚れきった海の中に有りました。

2つのクリスタルとも、汚れきって輝きを失っています。

私達は、クリスタルを輝かせるためにクリスタルの種を入れ、虹の光のワンドでクリスタルを活性化していきます。

女神アフロディーテも、クリスタルをさすりながら、クリスタルの修復を行っています。

2つのクリスタルが輝き始めると、お互いに呼応するかのように、クリスタルが輝き始め、その光が星全体に広がっていきます。

光が満ちてくると星全体も輝き、宇宙船の残骸やこの星にたまっていたゴミ達もなくなります。

そして、星がきれいになったところで、いつもの星の次元上昇です。

するとクリスタルの中から2番目の女神が現れてきました。

私達や女神アフロディーテがクリスタルに光を送っている様子を見て驚いています。

「あなたは、女神アフロディーテ様ではありませんか、私達のクリスタルを輝かせてくれてありがとうございます。

ようやく、私も自分の星に戻って来れたようです。」

新しく現れた女神は、女神アフロディーテにお礼を言っていますが、周りに見覚えのない私達が立っているのを見て不振がっています。

きっと多くの侵略者達が、この星にやってきて「生命の水」を奪い合ったために、人の事を信頼できないようになっているのかもしれませんが。

それを見た女神アフロディーテは、にっこりとほほ笑んで答えます。

「この方達は地球から来られた TAKESHI さん達で、大天使やシェンロン達と共に、この星の様々な問題を解決して、みずがめ座を救ってくださった方達ですよ。」

サダルメリク星の女神は、その言葉を聴くと、私達の前に立ち、ひざを曲げて挨拶をします。

「私の知らない事とはいえ、大変失礼しました。

私はサダルメリク星の女神である、レイナと申します。

皆さんがご覧になったように、この星は侵略者達によって荒らされ、「生命の水」は汚れ果ててしまいました。

私は、この星を守る女神として、この星を守りきれなかったことを悔やんでおります。

この星の海も以前までは、とても美しかったのですが、今では・・・。」

汚れきった海を私達に見せようとした女神レイナの声が止まりました。

彼女が指さした先にある海は、とても美しい海に変わっていたのです。

もちろん犯人は「生命の孢子マー君」達です。

彼等は、サダルメリク星に来ると同時に、汚れた海を見て、海の中に飛び込み、見たこともないほどたくさん孢子をだして海をきれいにしてくれたのです。

「女神アフロディーテ様、一体どうしたのでしょうか。」

あれほど汚れていた海が、まるで生れ変わったようにきれいになっています。」
女神レイナは信じられないといった顔をして、私達を振り返ります。

女神アフロディーテも、喜びで声が弾んでいます。

「これも TAKESHI さん達がおこなってくれたことです。
生命の胞子と呼ばれる不思議な生命が、汚い水をすぐにきれいな水にかえてくれるので、私達もびっくりしているのです。
これは、本当に素晴らしい魔法としか言いようがない事なのです。」

女神レイナは、私のもとに来ると、私の手をしっかりと握り、喜びで声を詰まらせてお礼を言います。

「TAKESHI さん、皆さん本当にありがとうございます。

私は、、」

女神レイナは、泣き出してしまいました。

私は女性の涙には弱いので、どうしたらよいのか分かりません。

美緒さんが、そんな私を見て言います。

「TAKESHI さん、たまにはこんなシーンもいいですね。

ほら、女神に優しくしてあげてくださいよ。」

仲間達も笑っています。

私は恥ずかしくなって、次の星に出発することにしました。

PART3 新しく生まれ変わる星のアカシックレコード

私達が次に行く星は、サダルスウド星です。

この星はまだ美しい海を持っていてとても豊かな感じがします。

私達が、降り立った所では、小さな若者が水遊びをしています。

どうやら、前回、私達が光に統合したマスターが世代交代をして新しいマスターが生まれている模様です。

そしてその背後には力強い女神が立っています。

このみずがめ座の中心となる女神で、まだ若いマスターの世話もしているようです。

「TAKESHI さん、そして皆さん、私はこの星を守護する女神サターシャです。

前回来られた時に、この星を支配しようとするマスターを目覚めさせてくださってありがと

うございます。

現在彼は、この星のスピリチュアルな次元に移動してこの星を見守っています。
今は、この若いマスターがこの星の物理世界を守っていく事になります。
もちろん、彼はまだ十分な力を持ちませんので、私が指導に当たっています。」

「女神サターシャよ、この星はまだ美しいままで、私達は安心しています。
私達は他の星々を回ってきたのですが、いくつもの星が荒らされ、クリスタルも輝きを失ってしまい次元降下していました。
私達は、クリスタルを活性化して、星の次元を上げてきました。
すると多くの女神達が現れてきました。
きっと、これからみずがめ座は素晴らしい星座になりますね。」

女神サターシャは、にっこり笑って答えます。

「TAKESHI さん、本当にありがとうございます。
私もここからみずがめ座の星を見ていましたら、いくつもの星が美しく輝きはじめ、女神達の清らかなエネルギーが戻ってきていることに気づきました。
おそらく TAKESHI さん達が、星々のクリスタルを活性化して女神達を呼び戻してくれたのだな、と思っておりました。
そして、このみずがめ座に流れている水の波動が格段と高くなっているのです。
それはきっと「生命の胞子マー君」と呼ばれているマスターのおかげでしょうね。
私達もこれで安心です。」

この星にもクリスタルは、海と陸に2つありますので活性を行っていきます。
私達が、クリスタルの活性を行って星の次元上昇を行うと、女神は大きな本を手にして読み始めました。
それは、この星や天の川銀河のアカシックレコードみたいな物のようです。
私達が星の次元上昇を行った事により、これからのみずがめ座の未来が変わってくるようです。

「TAKESHI さん、見てください。
これは、みずがめ座の記録であり予測です。
以前は、みずがめ座の星が様々な問題により次元降下して女神と切り離されることにより、みずがめ座にもたらされた「生命の水」は汚れ果て、天の川銀河を浄化することも潤すことも出来なくなった。
そして、新たな生命は次第に生まれなくなった。と書いてありました。
しかし、今この記録は大きく書き換えられました。
みずがめ座は、TAKESHI さん達の手によって復興され、新たに清められた「生命の水」は、

天の川銀河を潤し、新たな生命を再び生みだすことができるようになった、と書き換えられました。」

女神サターシャは喜んでいます。

これでみずがめ座は、本来の役目を果たすことができるようになるでしょう。

「それから、TAKESHI さんにもう一つお願いがあります。

実は、「生命の水」は、私達の星の先にあるイーター星の近くにある空間から流れ込んでくるのですが、そこは星でないために、私達女神が、その場所を守る事ができないのです。

「生命の水」の源を守る方法を考えてもらえませんか。」

女神サターシャにお願いされて、みずがめ座の左腕に当たるイーター星に行きました。

とても不思議な星で、創造主から送られてくる「生命の水」は、この星の近くにある空間から、みずがめ座に流れ込んでくるようです。

何かしら、イーター星も水の中に浮かんでいるような不思議な星ですが、この「生命の水」の源泉を守るために、ユニバーサル魔法使いの力を借りることにしました。

私が呼び出すと、ユニバーサル魔法使いの弟子ともいえるような 2 人組が現れました。

1 人は黒のマント、1 人は白のマントです。

彼等に対策を尋ねるとこのように答えました。

「この水を本当に必要とする人には、この水が輝いて価値があるものに見えるようにしましょう。

この水を奪いに来る人には、この水が価値の無い、汚れたものに見えるようにしましょう。」

私は、彼らの知恵に感心していました。

水を扱う気持ちによって水の見かけを変えるという事はとても素晴らしい考えです。

彼等は、「生命の水」の源の左右に立ち、神聖幾何学を描きながら魔法をかけています。

これで、「生命の水」は守られることになるでしょう。

私達は、これでみずがめ座を終り、次回から、「生命の水」の流れる経路であるいくつかの星座のクリーニングと次元上昇の旅に出ることになりました。

第4章 くじら座の秘密とうお座の再生



PART1 アフロディーテからのくじら座に関するメッセージ

みずがめ座の問題を処理し、みずがめ座の女神達を呼び戻す事に成功した私達は、女神アフロディーテからのメッセージを受け取り、次にくじら座に向かう事になりました。女神アフロディーテからのメッセージをご紹介します。

くじら座の問題に関して大切な事をお知らせしておきます。
くじら座は、巨人族のアトラスと並ぶほどの大きな闇のマスターがいます。
さらに、メンカル星、ミラ星、デネブ・カイトス星のそれぞれの星に特殊なマスターがいて、闇の力を誇っています。

本来このくじら座の役割は、みずがめ座からもたらされた水を天の川銀河の生命達に供給することです。

南のうお座から流れ込んだ「生命の水」は、一度天の川銀河のスピリチュアルなレベルに上がりますが、それを再び、物理世界へ降ろしていくのがくじら座の仕事です。

くじら座は、そのおおきな体と卓越した物理化のパワーによって、みずがめ座に流れ込んできた「生命の水」を天の川銀河の星々に循環させる役割を持っています。

くじら座の主要な星は、それぞれ異なる星々の領域につながっており、「生命の水」をそれらの場所に分配していきます。

くじら座の働きを助けるのは、うお座、エリダヌス座、ウミヘビ座等の星々です。

これらの星座によって、天の川銀河の様々な星に「生命の水」は分配されていくのです。

くじら座に起きている問題は、その星で働くマスター達が力を持ちすぎて傲慢になり、マザー・クリスタルを傷つけたり、女神の働きを阻害してしまっていることです。

メンカル星は、周りの 5 つの星と共にこのくじら座すべてを統括し、多次元への水の働きを調整するための場所です。

メンカル星の上には、水にかかわる創造主もいらっしゃいますが、主だったマスターが創造主から離反してしまいました。

というのも、マスターの中心となった魔法使いが、自らが創造主になろうとしたことが事件の発端です。

彼は、魔法を使って他の星のマスターと騎士団を支配してしまいました。

創造主は、危険を察知していち早く他の次元に逃げ込んでいきましたが、くじら座の働きは統制を失ってしまいました。

そして、お互いの星のマスター達が権力争いを行い、騎士団や魔法使い達を使ってお互いを傷つけあっているのです。

この争いにより、この天の川銀河に適切に分配されるはずの水は汚染され、流れは滞り、分配がうまくいかなくなりました。

「生命の水」が流れないことにより、この宇宙の生命創造の働きも滞り、創造主達の力も十分に発揮されません。

まずメンカル星と 5 つのクジラの頭の星を正常に戻し、くじら座の統治形態をもとに戻してください。

大変なのは、メンカル星にいる魔法使いです。

とても力が強い魔法使いなので、ユニバーサル魔法使い様のお力添えをお願いしてください。
メンカル星の魔法使いは、星全体の時を止めるだけでなく、彼は姿を隠すマントを持っていますから、匂いをかぎ分ける事が得意なおおかみ座の騎士団を連れていくとよいでしょう。

そして、愛の女神や愛の天使の光を彼に注いで、彼の心と体に巣くう闇のエネルギーを取り払ってください。

皆さんは虹色のワンドと虹色のマントを必ず使用してくださいね
その後、創造主が、復活したら彼の指示のもとに作戦を立ててください。

もう一つ大きな障害は、ミラ星です。

ここも巨大なパワーを持った魔法使いがいて、時間と次元を自由に行き来することができますので、時間だけでなく次元も固定してください。

これはおそらくユニバーサル魔法使いであればできるはずです。

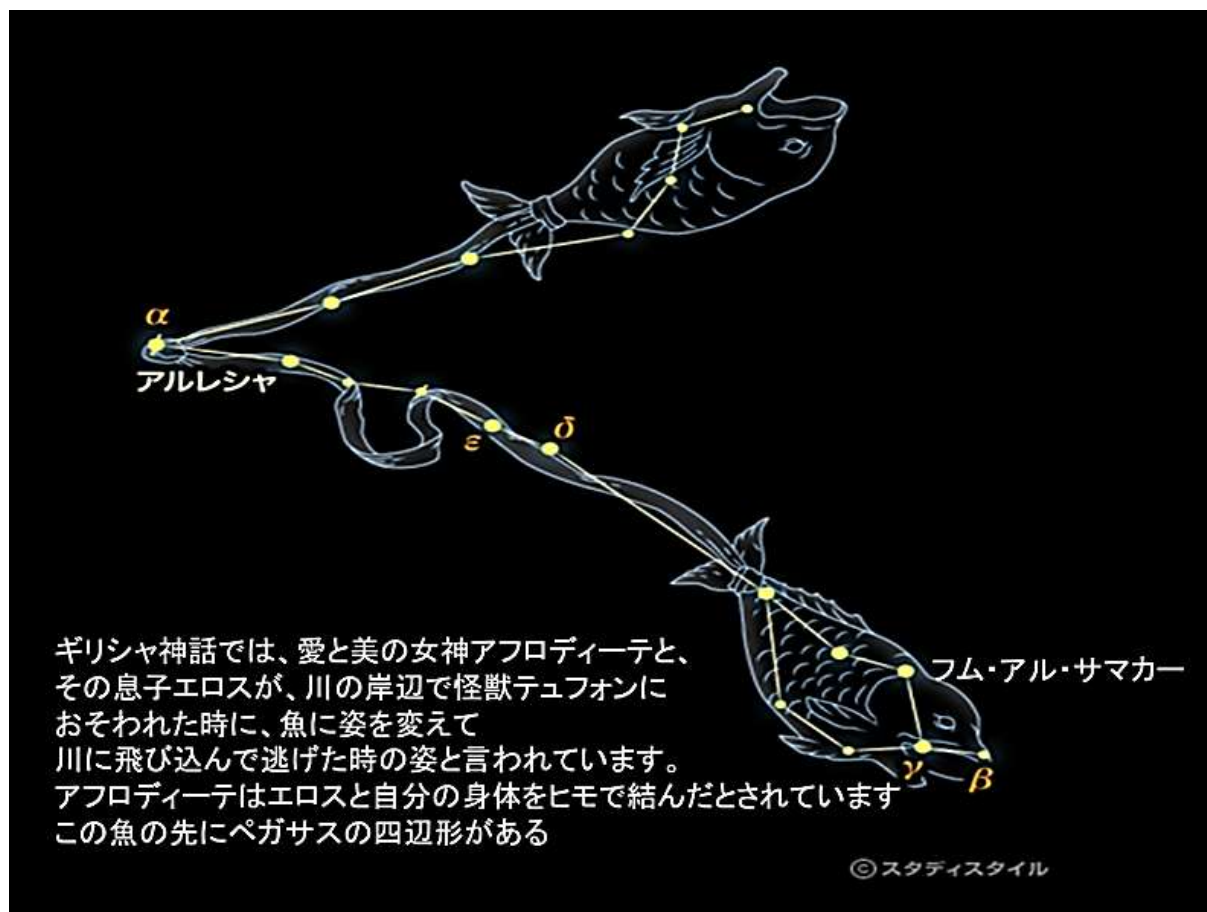
ミラ星が変光星なのは、このミラ星自体が、次元を自由に変える能力を持っているからです。
その次元の狭間に落とし込まれたら、皆さんは相手をとらえることはできないでしょう。

次のデネブ・アルゲヌビとデネブ・カイトスは巨人族の騎士団が存在しています。

「生命の水」を、物理世界にとどめておくのが彼らの役割で、ティターン族の末裔です。
ティターン族の長兄オケアヌスの子孫として、この天の川銀河で、創造主達と共に水に関わる仕事をしてきました。

しかし、いくつかの問題により、それもうまくいっていませんので、その問題も処理してください。

そうすればこの 2つの星は、闇の支配から逃れ、再びティターン族がしっかりとこの天の川銀河のために働いてくれる星となるでしょう。



PART2 うお座の再生

みずがめ座を光で守り、その働きを正常にした後に、私達はくじら座に向かう事になりました。

くじら座は、アフロディーテ様のメッセージにあったとおり、みずがめ座の水を、天の川銀河の様々な領域に運ぶことが役目です。

しかし、くじら座の主要な星のマスターや魔法使いが闇に落ち、創造主さえも近づけない状態になっているようなので、私達は直接くじら座にはいることはできません。

そのために、くじら座のすぐ近くにあるうお座に入り、うお座を活性化してから、うお座で作戦を練る事にしました。

まずうお座のアルレシャ星に入り、天の川銀河の大天使達にお願いして、アルレシャ星とうお座全体を光の波動で覆います。

私達は、アルレシャ星のマザー・クリスタルを見つけて、光で浄化を行います。

そして大天使達にお願いして、他の星のマザー・クリスタルも連動して活性化させていきます。

アルレシャ星から、ポンポンポンと花火が上がるように光が続けざまに輝いていきます。

各星のマザー・クリスタル達が目覚めて輝き始めたのでしょう。

このうお座そのものには、女神やマスター達はいないようです。
ただ「生命の水」が流れる通路のような役目をしている星座のようです。

そしてうお座全体を取り囲むように、大天使と女神アフロディーテ達が光を送ります。
うお座全体を一度に活性化させる働きです。
活性が終わると、フム・アル・サマカー星に大きな光が輝き始めました。
私達は、気になってフム・アル・サマカー星へと入って行きました。

私達がそこで見たものは、美しい青年の姿をしたエロースの姿でしたが、とても痛々しい表情に見えています。

私達は、彼に一体何が起きたのかと尋ねます。
エロースは、重苦しい口を開いて静かに答えます。

「私は、この星に長い間、身を隠していました。
私は本来、愛をもたらす神であったのですが、愛は神々だけでなく多くの人々を混乱に陥れました。
本来愛は、人々に喜びと豊かさをあたえる物ですが、人々は愛を求めるあまり、愛によって理性を失ってしまいました。
人々は、愛を得ようとする時に、私に相手の愛を勝ち得る事ができるようにお願いをします。
しかし、しばらくすると、同じ人が異なる相手を求めるために、私に再びお願いしてきます。
人々の願いはあまりにも自分勝手です。
愛をその場限りの感情と同じように考えているのです。」

私達は、予想もしなかったエロースの登場と彼の悩みに驚かされました。
「しかし、あなた方は、この宇宙のために働いているようですね。
この時代に、まだその様な人達がいるという事は、私達にとっても大変な喜びです。
どうか、多くの星々や生命を助けてあげてください。」
彼はそう言って、私達に「生命のしずく」と呼ばれる星や生命を癒すためのアイテムを差し出してくれました。

「エロース様、私はあなたの悩みをまだ十分に理解することができず、あなたをお助けすることができなくてもうしわけありませんが、この「生命のしずく」はしっかりと活用させていただきます。」
私達はそう言って、フム・アル・サマカー星を立ち去り、アルレシャ星に戻ってきました。

私達は、うお座のアルレシャ星に入り、くじら座の様子をうかがい作戦会議です。
するとそこにエリダヌス座のエリダヌス様という魔法使いが現れました。

お話を聞くと、くじら座の魔法使いの仲間らしく、水に関係する魔法使いとして共に働いていたのですが、メンカル星の魔法使い達が、闇に落ちたことを心配して様子を見に来たという事でした。

そして、このメンカル星を中心として、5つの星にはすべて魔法使いがいて、共同で仕事をしていたそうです。

すると別の魔法使いも現れてきました。

どうやら、くじら座にいる魔法使いの1人のようです。

このくじら座の魔法使いの中でも、きちんと自分の仕事を行っている魔法使いもいて、私達の事をエリダヌス座の魔法使いから聞くと安心したような雰囲気です。

第5章 くじら座の魔法使いと創造主



PART1 メンカル星の魔法使いの心の闇

今回の星のツアーは、闇に落ちたくじら座の魔法使いが相手なので、私達は、天の川銀河の魔法使いのリーダーともいえるユニバーサル魔法使いもお呼びして備えてあります。

最初に、くじら座全体の闇を浄化し、星々を活性する作業をいつものように行います。創造主に星座の上で六芒星を作ってもらい、天の川銀河の大天使達が、その周りに光を送ります。

今回は、相手が魔法使いである事から、ユニバーサル魔法使いにお願いして、メンカル星の時を止め次元を固定し、闇の魔法が使えないように設定してからメンカル星にはいる事にしました。

私達は、まず闇に堕ちた魔法使いを探し出し、彼を闇から救いださなければなりません。

私達はメンカル星へと入ります。

赤茶けた岩肌が露出する荒野のような星で、私達にはあまり栄えている星のように見えません。

私達は、わし座騎士団、ペガサス騎士団達にお願いして空から魔法使いを探します。魔法使いが姿を隠している可能性もあるので、おおかみ騎士団には地上から探してもらいます。

その間、シェンロンのエルエル達は、メンカル星のエネルギーの浄化にあたっています。

魔法使いの捜索を行っている騎士団から連絡が入りました。

魔法使いが見つかったようです。

ペガサス騎士団とわし座騎士団は、上空にそびえる塔のようなところで嘆き悲しんでいる魔法使いを見つけました。

おおかみ騎士団は、洞窟の中でぐったりとしているような魔法使いを探し出しました。

私達が、この魔法使いのもとに行くと、どうも不思議なのです。

塔のところにいる魔法使いは、スピリットだけで肉体が伴っていませんし、洞窟のところにいる魔法使いは、肉体だけでスピリットがありません。

私は、ユニバーサル魔法使いに理由を聞いてみました。

「この魔法使いは、何らかの理由で自分の肉体とスピリットを分離したようです。

おそらく、自分の意識と肉体が闇にとらわれる寸前にスピリットだけは、肉体から脱出したようです。

自分自身で、闇に捕らわれている事が分かり、逃れようとしたのでしょう。」

私達が調べると、このスピリットも闇の渦巻きに捕えられているようですので、大天使達を呼び光を送ってもらいます。

ユニバーサル魔法使い達は、魔法使いを闇から解き放つために、彼に神聖幾何学を描き、光を送っています。

私も、光の遺伝子を傷ついた魔法使いのハートの中に入れていきます。

魔法使いの周りで、光と闇がぶつかり合い、パチパチと火花が飛び散っています。

私達は、洞窟の中にいる魔法使いの肉体のもとに移動しました。

聖母マリアと愛の女神達、癒しの天使達は、うずくまる魔法使いの意識と肉体を癒しています。

光の遺伝子を彼のハートに注ぎ込み、彼と闇の渦巻きを切り離し光に統合します。

肉体の意識が少しずつ戻ってきたようです。

私達が来るのが遅ければ、魔法使いの肉体と意識は死を迎えていたかもしれません。

ユニバーサル魔法使いが私に言います。

「今ならば、私の魔法によって、傷ついた肉体と意識を塔の上にいた魔法使いのスピリットと一つにすることができると思います。

彼を復活させますか。」

私は、そうするように、ユニバーサル魔法使いにお願いしました。

ユニバーサル魔法使いは2人の弟子を呼ぶと、肉体とスピリットの場所に立たせ、神聖幾何学を描き光を送らせます。

そして彼は、スピリットのエネルギーを、特殊な光で包むと、それをもって肉体の元へと降りてきました。

彼は、魔法使いの肉体の元に戻ると、肉体とスピリットを結合するための魔法を使って、それらをひとつにしています。

しばらくすると、傷ついた魔法使いは意識を取り戻してきたようです。

彼は目を覚まし、ユニバーサル魔法使いを見ると驚いた顔で叫びました。

「先生、先生がどうしてここに！」

この魔法使いは、とても正義感が強い魔法使いで、ユニバーサル魔法使いの弟子の中でも、ひとときわ輝く存在だったようです。

ところが、非常にまじめな性格で、墮落していく魔法使いが許せなくて、彼らを厳しく攻めてしまい、自らの心に憎しみという闇を持ってしまったそうです。

その為に、自分自身の心を闇に占拠され、あとは闇の手先となって、メンカル星を支配するように動かされてしまったようです。

彼は、最後のところで、自分の過ちに気づき自分自身の肉体とスピリットを分離する事で、スピリットだけは守ったようですが、自分自身の行った事に対して、深い反省をしていました。

彼がそのような話をしている間に、彼の心から大きな蛾のようなものが出てきました。

魔法使いは、自分の中にそのようなエネルギーがあった事に驚き、自分の魔法でその蛾を消し去っていききました。

私達は次に、このメンカル星のマザー・クリスタルに向かいました。

マザー・クリスタルは、この星の地下にありました。

そこは金鉱の中なのかとても美しい黄金色で満ち溢れていました。

まるで、夢の世界のような地下の王国です。

私達はいつものようにクリスタルを活性化し、この星の次元上昇を行いました。

すると、上の次元の扉が開き、美しい光がどんどん流れ込み、フェアリー達が現れてきました。

もともとこの星は、フェアリーやニンフ・マーメイド達の星のようです。

星の次元が上がると、それらの住人達が戻ってくるようです。

PART2 くじら座の五芒星の星達

くじら座の頭に当たるところには、メンカル星を中心として5つの星が輝いています。

私達は、それぞれの星の状況を調べるために、メンカル星の魔法使いと共に、星々を巡ることにしました。

これらの5つの星を活性化し次元上昇することができれば、この星座を統治する創造主も現れてくることでしょう。

★メリリアン星

私達が降り立った星は、くじらの目の位置にある星です。

星の平地に降り立ちましたが、この星の魔法使いも出てきてくれましたので、おそらく大きな問題はないようです。

この星の魔法使いは、全てを見通すことができる力を持っていた魔法使いのようです。

この星の魔法使いが私達の前に立ちます。

そしてユニバーサル魔法使いに深くお辞儀をしてから話し始めます。

「私もユニバーサル魔法使い様の弟子で、くじら座の5人の魔法使いの1人でした。

私達は、メンカル星の魔法使いが、闇の手先となって暴れまわっていた事を危惧して、彼に対して警告を行ってきましたが、彼がその警告を無視して、他の魔法使いと共謀し、くじら座の創造主を追放した事にあきれてしまい、姿を隠しておりました。

しかし皆さんが、メンカル星の魔法使いの闇を処理してくださり、メンカル星の魔法使いがもとに戻ったことを知り、この星に戻ってきました。

皆さん本当にありがとうございます。」

メンカル星の魔法使いは、恥ずかしそうな顔をしています。

「しかし、メンカル星の魔法使いも自分の過ちに気づいたことですし、これからは、素晴らしい魔法使いとして、立派にその責任を果たしてくれることと思いますので安心です。」
メリリアン星の魔法使いは、安心したようなまなざしをメンカル星の魔法使いに向けました。

私は、この星の魔法使いにマザー・クリスタルのもとに案内してもらいました。
先ほどメンカル星のマザー・クリスタルを活性化するとき、他の星のマザー・クリスタルも連動して活性化する装置を使ったのですが、他の星々のクリスタルは十分に活性されていないようです。

マザー・クリスタルのスペシャリストであるユニバーサル魔法使いにお聞きすると、連動装置でクリスタルは目覚め活性を始めるが、やはり1つ1つしっかりと向き合って、クリスタルに語りかけるように活性を行っていないと、そのクリスタルの本当の輝きが出ないことを教えていただきました。
やはり、星々のエネルギーを支えるマザー・クリスタルですので、簡単にはいきません。

そこで、私も気持ちを切り替えて、1つ1つのクリスタルに向かい活性を始めました。
すると不思議な事に、クリスタルの名前が浮かんできます。

この星のクリスタルの名前は、「メリリアン」と言う名前らしいです。
私が、「メリリアン、光輝いてください。」と名前を呼び語りかけると、さらに輝きが増しました。
やはりクリスタルも生きていますね、自分を認めてもらう事により、その能力を一気に高めるようです。

★メルセデス星

次に行った星は、くじらの頭のところに当たる星です。
この星の魔法使いはなぜか、頭がとんがっています。
クリスタルも山頂にあり、くじら座全体を見張り、明かりで照らすような役目をしているようです。

私達とメンカル星の魔法使いが星に入って行くと、この星の魔法使いは大きな声で怒鳴ります。
「誰だ、私の星に勝手に入ってくる奴は、すぐに出ていけ。」
特に、この魔法使いはメンカル星の魔法使いを嫌っているようです。

いきなり石の雨を降らせてきました。

「宇宙の光」のメンバー達は、驚いて「きゃー」と叫び、逃げようとしたましたが、その瞬間、ユニバーサル魔法使いが、自分の杖を一振りすると、その石の雨は遠くに弾き飛ばされていきました。

魔法使いは更に怒って海の水を魔法ですくい上げ、私達を水で押し流そうとしました。

メンバー達は、急いでユニバーサル魔法使いの後ろに隠れます。

ユニバーサル魔法使いは、再び自分の杖を一振りすると、その水は海に返っていきました。

この星の魔法使いは、今度は、私達の動きを封じるために、時を止める魔法を唱え始めましたが、ユニバーサル魔法使いの方が一瞬早く呪文を唱え終わったようです。

動きが封じられたのは、私達ではなく、この星の魔法使いのようでした。

私達が、この魔法使いのもとに近づくと、魔法使いは石のように固くなっていました。

ユニバーサル魔法使いが、時を止める魔法を解除すると、この星の魔法使いは、へなへたと地面に座り込んでしまいました。

この星の魔法使いは、ユニバーサル魔法使いを見て驚いています。

「あなたは、私達の先生ではありませんか、私は尊敬すべき先生に向かって魔法の攻撃を仕掛けていたのでしょうか、大変申し訳ありませんでした。」

魔法使いは地面に頭をこすりつけるようにして謝っています。

「ヘンネルよ、なかなかいい攻撃だったぞ、しかし、時の呪文をかけるのに手間取ったな、それがなければ、私達に勝てたのに残念だったな。」

ユニバーサル魔法使いは大声で笑っています。

ヘンネルと呼ばれるこの星の魔法使いは、とんでもないという顔をして答えます。

「先生、本当に申し訳ありませんでした。

このくじら座には、たくさんの者達が水を奪いに来るのです。

そしてこのくじら座の自然を荒らし傷つけていきます。

私の役目は、それらの者を見つけ追い払う事です。

くじら座を守る事が私の役目と心得ております。

しかし、私達を裏切ったメンカル星の魔法使いと一緒に連れてこられたとはどういう事ですか。」

メンカル星の魔法使いはここでも申し訳なさそうな顔をして黙っています。

「いや、彼は自分の過ちに気づき、自らのスピリットと肉体を分離し、闇から逃れようとしたのだが、そのままでは死んでしまうところだったので助け出してあげたところだ。彼がこの星座で行った暴挙も、彼自身が強く反省している様なので、どうか許してあげてください。」

「先生がそのようにおっしゃるのならば、私達も彼を許しましょう。
しかし、以前のような過ちは2度と起こさないと約束してください。」
メンカル星の魔法使いは、顔をあげて答えます。

「もちろんです、私は自分の命に代えても、再び闇の手に堕ちることはしませんので、私の過ちを赦して下さい。」

私達は、くじら座の魔法使い達が仲直りしてくれる様子を微笑ましく見えています。
私達は、山頂にあるマザー・クリスタルの周りに、立派なクリスタルの神殿を立てクリスタルの活性を始めました。

この星のクリスタルは、「メルセデス」という名前ですが、これは「神の恵み」という意味らしいです。
まさに、創造主から与えられた「生命の水」ですから「神の恵み」そのものです。

この星には美しい海がありますが、やはり海の水はきれいではありません。
さっそくマー君に出てきてもらい海をきれいに浄化してもらおうと、海はエメラルド・グリーンに輝き始めます。
そして、マーメイド達が海で泳いでいる様子も見えます。

★メディツクス&メジット星

次の星は、くじら座の後頭部に当たるところにある星です。
私達がこの星に着くと、1人の魔法使いが、私達のもとに現れました。
「皆さんが、みずがめ座の次元上昇をなさったとお聞きしましたので、やがてここにもいらっしゃるだろうと思い、お待ちしております。
私は、くじら座の魔法使いの1人で、ルーリーと申します。
私はこの星を守っているのですが、もう1人の魔法使いが、どうもおかしくなってしまったようですので様子を見てもらえませんか。」

この星にはもう1人魔法使いがいて、闇に落ちているようで困っています。

すぐにその場所に行きましたが、魔法使いはずっと遠くを見るようにぼんやりとしています。やはり闇の渦巻きの中に巻きこまれています。渦巻きも小さく処理は難しくなそうですので、今回は騎士団達で処理します。

魔法使いは傷ついているので、アスクレピオス様のもとに運びました。

またこの魔法使いの周りにも数名の魔法使い達が、真空のカプセルのような物に入っています。

こちらは、ユニバーサル魔法使いにお願いして、元の魔法使いに戻してもらう事にしました。

メンカル星の魔法使いが、小さな声で言いました。

「本当にすみません、彼は私と共に闇に侵されて、一緒に行動していたのです。私が、自分の過ちに気づいて、肉体とスピリットを分離した後、彼はどうしたらよいかわからずに、私の後をおい、肉体とスピリットを分離しようとしたのかもしれません。これも私の責任です。許してください。」

メンカル星の魔法使いは、涙を流して、傷ついた魔法使い達に謝っています。

次にこの星の魔法使いに、マザー・クリスタルのもとに連れて行ってもらいました。

この星のマザー・クリスタルは2つあり、最初に行った場所は、星の地下にあるクリスタルです。

驚いたことに、このクリスタルの周りには、たくさんの光の結晶が、クリスタルを埋め尽くすようにおいてあります。

クリスタルの光が、星の形をした夢や希望になっているようです。

魔法使いのルーリーがこのクリスタルについて教えてくれました。

「実はこの星の事は秘密なのですが、このクリスタルは人々の夢や希望をかなえる力を持っているのです。

マザー・クリスタルから生まれた光の結晶が、その人の願いをかなえてくれるようです。

よろしかったら皆さんも1個だけお持ち帰りください。

私達からのお礼の気持ちです。

そしてこの星の事は秘密にしておいてくださいね。」

宇宙の光のメンバー達は大喜びで、自分が気に入った光の結晶を選んでいきます。

ここのクリスタルを、活性していると「メディツクス」という名前が浮かんできました。

このクリスタルは、「生命の水」と共に、宇宙全体へ夢や希望を与えているクリスタルのようなので、特に念入りに活性を行いました。

もう一つのクリスタルは、「メジット」という名前で、小高い丘の上にあります。

このクリスタルは、闇を吸収する働きがあります。

「メルセデス」と連動して、このくじら座を見張り、ネガティブな存在が来たら協力して、くじら座を守る働きをしたり、「生命の水」が常に美しくあるように、水の浄化を行ったりする役目がありそうです。

★アンティーナ星

くじら座の頭部にある星の中で残っている星は、顎の位置にある星だけとなりました。

私達は、その星に入りました。

この星の魔法使いは、とても勢力が強い魔法使いらしく、この星にも大きな闇の渦巻きが見えます。

この星の魔法使いは、すでに闇の渦巻に捕えられて動く事も出来ません。

メンカル星の魔法使いはその姿を見て悲しんでいます。

「彼は、私と共に、大きな闇の力に飲み込まれてしまいました。

彼は、いくつものエレメントを使いこなす優秀な魔法使いでしたが、私と共に、このくじら座を支配しようとして闇に捕らわれたのです。

本当に申し訳ないことをしました。」

この星の魔法使いは残念な事に息絶えていました。

闇の渦まきにその生命エネルギーを奪い尽くされたのでしょうか。

私達は、この星の地下にあるマザー・クリスタルを活性化することにしました。

クリスタルを虹のワンドで光を送り、どんどん活性していくと、クリスタルが輝きます。

私はこの中に、「生命のしずく」を入れると、クリスタルが大きく輝きます。

するとその中から1人の小さな魔法使いが生まれてきました。

この星を新たに統治する魔法使いです。

メンカル星の魔法使いがその子を見て、ユニバーサル魔法使いにお願いをしています。

「先生、この子は私が預らせてもらってもよろしいでしょうか。

私がしばらくの間育てて、時期が来たら、先生のもとで学ばせたいと思います。

それが、私ができるせめてもの償いです。」

ユニバーサル魔法使いは、新しく生まれてきた子供の魔法使いの頭をさすりながらほほ笑んでいます。

PART3 くじら座の若き創造主と3人の女神

これでくじら座の頭にある五芒星の魔法使いは、メンカル星の魔法使いを始め、きちんとした形で星に戻ってきました。

もちろん最後のアンティーナ星の魔法使いは新しく生まれ変わり、メンカル星の魔法使いが親代わりとなって面倒を見てくれることになりました。

私達は、それぞれの星のマザー・クリスタルを活性化して、星の次元を上昇させる事もできました。

次は、このくじら座を統治している創造主をこのくじら座に呼び戻す必要があります。そのためにはこのくじら座の五芒星の星を、同じ次元へとさらに上昇させ、創造主への扉を開いていかなければなりません。

私達は、各星の魔法使い達に呼びかけ、更なる次元上昇の準備をさせました。

騎士団と女神達を各星に配置しいつもの手順で祈り始めました。

魔法使い達は、自分達の星の上に神聖幾何学を描いて光を送ります。

アンティーナ星は、魔法使いマーリンが来て代わりに神聖幾何学を描いています。

そして5つの神聖幾何学をまとめてさらにパワーを高める為に、ユニバーサル魔法使いが巨大で複雑な神聖幾何学をくじら座の頭部を覆うように描いています。

星の次元上昇も今迄よりもさらにパワフルに行われ始めました。

この5つの星の光がドンドン輝き広がっていく感じが伝わってきます。

私達は、先日創造主から預かったクリスタルの種を、丁度くじらの目の場所にあたる星のマザー・クリスタルに埋め込みます。

すると大きな輝きが五芒星を包み、星の上に大きなハーキマークリスタルのような光が輝き広がり始めました。

この光が、創造主を導くための合図のようにも見えます。

大空に広がった光の中から、4人の女神が担ぐ神輿のような台に乗った若い創造主が現れました。

その若さに私達も驚いたのですが、創造主の世代交代が行われて、まだ若い創造主が、後を継いでこの世界に降りて来たようです。

創造主の後ろに控えるお母様のような女神によって、この創造主の特質が、純粹さ、心の美しさ、清らかさであり、「生命の水」を守り光に満たすことが、若き創造主の役割である事を

告げられました。

創造主の持つワンドから光が零れ落ち、くじら座の星々とそこに流れる水が、光輝き始めます。

女神が、私達の前に立ち話しかけます。

「皆さんが、くじら座の魔法使いの問題を解決してくださった事を心から嬉しく思います。私達は、魔法使いの横暴によって、くじら座を追われましたが、それも魔法使い達の過ちを見過ごしてしまった私達の責任です。

以前の創造主は、もう年を取り過ぎたのかもしれません。

私達は、新たな創造主を迎え、くじら座の立て直しを行いたいと思います。

ただし、くじら座の頭に位置する星々とは、とても近い関係になりましたが、ミウ星を始め他の星とはまだ遠い関係です。

皆さんのお力をお借りしなければ、それらの星々の問題を解決する事ができません。

どうか、この宇宙を潤す「生命の水」のために、お力をお貸してください。」

女神達が、そろって私達に礼をしてくれます。

まあ、こういう展開は仕方がないでしょう、と私達もあきらめざみです。

第6章 ミラ星のドラゴンと悲しき女神



PART1 変光星ミラの大きな秘密

さて次は、このくじら座の最大の難関「ミラ星」です。

このミラ星は、変光星として知られている星で、その光は一定でなく、2 等星のように輝くときもあれば、全く気付かないくらいに輝きを失うこともあります。

その原因は定かではありませんが、きっとこの星のスピリチュアルな状況とも関係しているかもしれません。

メッセージでも、闇に堕ちた巨大な魔法使いがいる星と聞かされています。

このミラ星の状態を調べると、星全体がヘドロのようなもので埋まっている事が分かりました。

私達は、この星に降り立つ前に、星にたまったヘドロ達を浄化しなければなりません。

そこでまず、生命の胞子マー君に星に降りてもらい、星のヘドロ達を浄化してもらいます。

マー君達は喜んでミラ星に降りていきました。

また魔法使い達にもお願いして、星のごみを吸い出すための巨大掃除機を作ってもらい外側からも、ヘドロのようなものを吸い出すことにしました。

魔法使い達が作った巨大掃除機は、どんどんヘドロのようなものを吸い上げていきます。

するとその過程で、非常に不思議なものが見えてきました。

それはミラ星を覆うくらい巨大な蝙蝠のような頭をしたドラゴンが、ヘドロの中に閉じ込められて苦しんでいるのです。

その姿を見た若き創造主に使える女神達は、「ココナッツのミルクを飲ませなくてはいけない」といって、そのドラゴンのもとに近寄ろうとします。

わたしもあわてて、女神達を守るためにペガサス騎士団を護衛につけてあげます。

エルエルとエルナエルが近くによって、このドラゴンのような存在と話をしています。

ヘドロに満ちた水を飲んでしまったことで気が狂い、十分な働きができずに苦しんでいるようです。

そして、このドラゴンが本来の働きができないために、くじら座の水が滞ってしまったようです。

エルエルとエルナエルが、このドラゴンに龍の紋章を描き生命力を高めています。

大天使達も集まってきて、ドラゴンに癒しの光を送ります。

くじら座の女神達も、ミルクを飲ませて一生懸命介護をしています。

もう1人の女神が、私達にこのドラゴンの事を説明してくれました。

「このドラゴンのように見える存在は、私達ととても仲が良い存在で、くじら座から他の星座に「生命の水」を運ぶ役目をしてくれるくじらなのです。

くじら座の頭の五芒星のところから降りてきた「生命の水」は、このミラ星の海に流れ込み、それをこのドラゴンのようなくじらが、必要な場所へと運んでくれるのです。

しかし、ミラ星の魔法使いが、この水を自分の物にしようと思い、他の物達を寄せ付けずに、このヘドロのようなものを作り出したのです。

しかし、そのヘドロが自己増殖して、星を覆ってしまい、私達の大切なくじらもヘドロの中に飲み込まれてしまったのです。」

私達は、星を浄化するための最終アイテム「星のしずく」をこの星に投入することにしました。

すると、マー君や巨大掃除機だけでは浄化することができなかった、星のヘドロがドンドンきれいになっていきます。

しずくが落ちたところから、水の波紋が広がるように、キラキラと輝く美しい水面が広がっていきます。

星全体が輝き始め、その輝きの中から、ミラ星の女神も浮かび上がってきます。

その様子を見たくじら座の女神達は、まるで自分達の姉妹が戻ってきたように喜んでいきます。

このミラ星の様子を眺めていた遙さんが尋ねます。

「この星は、本当は美しく輝いていた星なんですよね。

耳を澄ませるとユニコーンやイルカ達の泣き声が聞こえてきそうです。」

「もちろん、以前はくじら座の中でも一番美しい星でした。

それも不思議なことに、様々な色の光に包まれて、魅惑的な光景を持つ星でした。

そしてイルカやマーメイド、ユニコーンやペガサス達も、この星で暮らしていたのです。」

くじら座の女神が答えます。

くじら座の女神が、私達のもとにミラ星の女神を連れてきてくれました。

「あなた方が、このミラ星をきれいにしてくれたのですか、ありがとうございます。

私は、ミラ星を守るミラレットと申します。

私達の大切なミラ星は、ある間違いから、こんなにヘドロに蔽われた星になってしまいました。

哀しいことに、これでは「生命の水」を蓄えることも、その水をくじら達に頼んで運んでもらうことも出来ません。

しかし、皆さんが来てくれたおかげで、ミラ星はまた美しい星に戻ってきました。

私はまた、くじらのために歌を歌いましょう。

多くのクジラ達が戻ってきて、このミラ星の水を、各地に運べるように。」

女神ミラレットは、くじら座の喉の所にあるミラ星で、くじらの歌を歌ってくじらを導く役目をする女神の様です

先ほどのくじらも、だいぶ正気を取り戻し落ち着いてきたようです。

私達は、解き放たれたミラの女神と共に、マザー・クリスタルを浄化しミラ星の次元上昇を行います。

ひときわ大きな輝きがこのミラ星を包み込みます。

やはりくじら座にとっても、大切な役割を持つ星の様です

私はクリスタルの活性が終わると気になっている事をミラ星の女神に尋ねました。

「女神よ、ひとつ気になる事があるのですが、この星の魔法使いは一体どこにいますか。

おおきな闇を背負っていると思うのですが。」

その時上空から大きな翼がはばたく音が聞こえました。

ユニバーサル魔法使いが危ないといって私達に守護の魔法をかけてくれたようですが、間に合わず、私達はミラ星の魔法使いによって時を止められてしまいました。

それからの事は、私達は何も覚えていませんが、しばらくたつと私達の意識は戻ってきました。

どうやら、私達の時が止められ意識を失っている間に、時を止める魔法から逃れたユニバーサル魔法使いとミラ星の魔法使いの間に、壮絶な魔法バトルがあったようです。

「TAKESHI さん、大丈夫ですか。

あの時襲ってきたのはやはり、ミラ星の魔法使いでした。

彼は黒のウイングのコントロールチップにより、ただの魔法使いではない強力な魔法使いに変わっていました。

私も、まさかとは思ったのですが、ミラ星の魔法使いは黒い羽根をもって空も自在に飛べるようです。

どうやら、近くの星に隠れていて、私達の動向をみて襲ってきたようです。」

「それで、魔法使いさんは、彼とどのようにして戦ったのですか。」

美緒さんが心配そうな顔をして尋ねます。

「最初は、彼から立て続けに繰り出される魔法に苦戦していました。

彼は瞬時に動きますから、私も隙を見せると、時を止める魔法で止められてしまいますので、動き続けなければなりません。

そして、彼から繰り出される石や水、弓矢の攻撃をくぐり抜けていました。

しかし、彼には大きな弱点がありました。

それは大きな羽です。

羽は風に弱いので、私は竜巻を作り、彼の羽を利用して、竜巻の中できりきり舞いをさせたのです。

そして、彼は黒のウイングのコントロールチップを持っているので、そのチップを破壊しない事には、彼の能力を奪うことができません。

そのために、彼を巻き込んだ竜巻の中に、何回も落雷を落とし、彼のチップを落雷の電気ショックで焼き切ったのです。」

この話に、私達だけでなく騎士団達も、その壮絶さに言葉を失っています。

「それで、ミラ星の魔法使いをやっつけることはできたんですか、」と美緒さんがおそろお

そる尋ねます。

「いえ、落雷に会っても彼のチップは壊れませんでした。
今度は、反対に私が彼の魔法によってヘドロの中に閉じ込められました。
その時、マー君達が飛んできて、私を助けてくれたのです。
それから彼は、私がヘドロにまみれている間に、私を別の次元に送るために、特別な魔法をかけてきました。
しかし、それを助けてくれたのは巨人族のスティックスでした。
彼女は、次元を自由に操る力を持っていますので、彼の魔法が、私にとどきそうになった時に、その魔法を反転して、彼の方を別の次元に送り込んだのです。
おそらく、彼はスティックスによって作られた次元から、当分は出てこれないでしょう。」

「良かったですね、マー君やスティックス達に救われましたね。」
「いや本当に今回は、危なかったです。
もし彼らの助けがなければ、皆さんはまだ石のように動けないままでしたし、私も知らない次元に閉じ込められていたでしょう。」

私達は、ミラ星の魔法使いとユニバーサル魔法使いの壮絶な戦いを想像するだけでも冷や汗が出そうです。
しかし、素晴らしい仲間達にあえて本当に良かったと、この時思いました。
宇宙の光の女神達が、傷ついたユニバーサル魔法使いを癒しています。

PART2 「生命の水」を循環させるくじらを呼ぶ笛

私達は、続いてくじら座の腰の位置あるデネブ・アルゲヌビ星に向かいます。
デネブ・アルゲヌビ星には、一足先に「生命の孢子マー君」と魔法使い達の巨大掃除機に入ってもらい、星の浄化を進めています。
私達が着く頃には、デネブ・アルゲヌビ星はとてもきれいな星になっていました。
この星は、とても美しい花園に満ち溢れた星のようです。
私達が星に降りると、数名の巨人達がやってきました。
そしてその背後に大きな白い馬が見えてきました。
白い馬にはひときわ体が大きく威厳のある巨人のマスターが乗っています。

私達の背後にいた巨人族のスティックスの姿を見ると、白い馬から気立てのよい大きなマスターがあわてて降りてきました。

彼も巨人族の1人のようです。

「私は、この星を守護するグレリアンと言います。

これでも巨人族の末裔ですが、あなたはもしかしたら、ティターン一族の長兄オケアヌス様の長女であるスティックス様ではありませんか。」

彼は、大地にひざまずき、頭を下げたままで尋ねます。

スティックスは、私達の前に出て言います。

「私はまさしく、オケアヌスの長女であるスティックスです。」

その言葉を聞いて、巨人族のマスターの声が震えます。

「あなたのような方がなぜ、このような者達と共にくじら座にいらしたのですか。

私達は、皆さんはすべて神々と同じ座にいてこの宇宙の物理的な世界には、あまりお関わりにならないと考えていたのですが。」

スティックスは、巨人族の末裔であるグレリアンを、きびしい目で見つめて言います。

「私達も、この宇宙に関わる必要がある時は関わります。

私と共に活動している者達は地球人ですが、彼によって私達の仲間であるアトラスは永遠の苦しみから解放されました。

そしてアトラスだけでなく、この天の川銀河の多くの星々やマスター達も、自分達が背負った闇から解放され、新たな世界が生まれてきつつあります。

私だけでなく、ここにいる者達はすべて、彼らと共に新たな宇宙を創造するために力を合わせて働いています。

今回は、みずがめ座やくじら座などの「宇宙の水」に関わる星座達を立て直すために、私達はここに来たのです。」

その言葉を聴くと、白い馬のマスターは怖気づいたようです。

「グレリアンよ、今度は私から質問しますが、あなたはここでどのような役割を担っているのですか。」

「はい、スティックス様、私達巨人族の役目は、くじら座の星々の生態系を、より良い状態に保ち、生命や植物達を守る事です

くじら座を「生命の水」が流れる通路としてふさわしい状態を維持しております。」

スティックスはしばらく、グレリアンの顔を見ていますが、グレリアンは、顔を伏せています。

「それで、あなた方の仕事はきちんと行われているのかしら。」

「いえ、私達はくじら座の自然を守ろうと思っているのですが、ミラ星の魔法使いやメンカル星の魔法使い達に邪魔されて十分な仕事をする事ができないのです。

本当に申し訳ありません。」

「わかりました、確かに、ミラ星の魔法使いやメンカル星の魔法使いは厄介でしたね。

しかし、ミラ星の魔法使いは、もうこの世界にはいません。

メンカル星の魔法使いも、優しい理性のある魔法使いに生まれ変わりました。

これであなたの仕事を邪魔する者はいませんね。

しっかりと仕事をしてください。

しっかり仕事をしないとティターン一族の長兄オケアヌスの長女であるスティックスがどのような戒めを行うかわかっていますよね。」

スティックスのすごい迫力に巨人族のマスターだけでなく、そこに居る者全員が怖気づきます。

「わかりました、全力を尽くしてくじら座を守ります。」

グレリアンはそう言って逃げるように去っていきました。

「本当に巨人族は怠け者が多いのだから！」とスティックスがつぶやきます。

グレリアンの姿とスティックスの言葉に全員笑い出してしまいました。

巨人族の1人が、何やら大きな法螺貝のようなものを取り出してお願いをしています。

どうやら、くじらをこの宇宙から呼び寄せるための歌をふくための笛の様です。

私達はそれを受け取って、ホビットに修理を願いしました。

修理が終わり、巨人達がその笛を吹くと、低音の美しい音が宇宙中に響き渡ります。

その音を聞きつけて、くじら座のくじら達も集まってきます。

くじら達は、巨人族が吹く法螺貝の音によって癒されています。

きっとここでくじら達も心と体を癒し、大切な水を運ぶ仕事をするのでしょうね。

遥さんがうっとりとした声で言います。

「なんてきれいな音なのかしら、私の心も、溶けていきそうですわ。」

女神達も騎士団も、そして魔法使い達も少し疲れたようです。

私は巨人族の1人にお願いして、しばらく法螺貝を吹き続け、私達のメンバーも癒してくれるようにお願いしました。

その間に私は、もう1人の巨人族にお願いして、この星のマザー・クリスタルの元に案内し

てもらいました。

この時、大きな鹿が、森の中をゆっくりと歩いていく様が不思議でした。

そして巨人族の協力を経て、デネブ・アルゲヌビの星を次元上昇させていきます。

PART3 悲しき女神の悲劇

私達が、最後に向かったのは、くじらの尾のところにあるデネブ・カイトスです。

私達がこの星にはいると、星は荒れ果て、山々は削り取られ、河川も汚れた水で汚染されています。

そしてなによりも、この星に住んでいる人は絶望しきっています。

生きる力を失い、ただ死んでいくために時間を過ごしているようです。

私達は、嫌な予感がして、この星のエネルギーを調べるために、少し瞑想します。

するとメンバーの数々が、異なるビジョンを見えています。

一つは、悲しみにくれた神官の亡霊のような姿、そして赤いドレスのうちひしがれたような女神の姿。

また星の上で何かを弔い、泣き崩れる女性達の姿。

全く謎に満ちた星ですが、一つ一つのビジョンを繋ぎ合わせることで、この星の過去が見えてきました。

この星は価値のある鉱物と美しい水に満ち溢れた豊かな星で、とても美しい女神が統治していました。

この星の価値を知った異星人達は、次々とこの星に降り立ち、女神をだまして、この星の豊かな鉱物と水を手に入れようと争いが起こりました。

巨人族達も、この星と女神達を守ろうとしたようですが、それもできずに争いによって、この星が荒廃してしまいました。

やがて、戦いによって星が荒廃した原因は、女神であると言い出す人達が現れ、女神は傷つけられ、苦しめられていきました。

本来は星を守る立場である女神が、その美しさゆえに、巨大な力を持つ異星人達を惹きつけ、星に争いをおこす原因となったばかりか、異星人達がこの星の女性達に対して暴力をふるい、多くの女性を傷つけたこともすべて、女神のせいであるとされてしまったのです。

この星の神官は、星のために一生懸命に働いてきた女神を憐れみ、女神とこの星の女性達を守るために必死で戦ってきたのですが、それもかなわず亡くなってしまいました。

この星では、女性性が踏みにじられ傷つけられたために、女性達はその女性性を隠しながら生きていきました。

その様子を見て遥さんや葵さん達は目に涙を浮かべています。

「どの星でも犠牲になるのは女性達よね。

この歴史は一体いつになったら終わるのかしら。」

もうすでに荒廃しきったこの星をどのようにしたらよいか・・・私も悩みました。

わたしは、冥界の神ハデス神を呼び、相談しました。

彼のアイデアで、私達は時をさかのぼり、女神の魂を呼び戻し癒すことにしました。

今は亡霊となっている彼女の魂を呼び寄せると、癒しの天使達や女神達、そして純粋な男性性の愛を持つマスター達が現れ、彼女の魂を癒し始めると、彼女の魂は光の中で喜びに満ち溢れ輝き始めます。

もちろん、時をさかのぼることによって、その時の争いの様子も浮かび上がってきますが、それも天使や創造主の光によって修正されていきます。

過去の時間が修正された事により、現在のデネブ・カイトスは、さらに輝きを増してきました。

まるでフェアリー達が魔法をかけたかのように、キラキラと光が舞い降り、美しい星へと変わっていきます。

赤いドレスの女神も生まれ変わりました。

くじら座の創造主のお母さんや女神達が、赤いドレスの女神を見て、涙を流してよろこんでいます。

きっと彼女も、同じ家族の1人なのでしょう。

デネブ・カイトス星が生まれ変わると、これでくじら座のすべての星が光輝き次元上昇した事になります。

私達はここで、このくじら座の光をさらに強めるために、くじら座の周りを、騎士団達で走り回り、光の通路とフロアーを作ることになりました。

まずくじら座の創造主のもとに集まりここからスタートです。

創造主と同じ高いレベルにまで自分達を引き上げここから光の通路とフロアーを作ります。

創造主がひとたびワンドを振ると、美しい光達がキラキラと輝き、美しい水が流れ始めます。

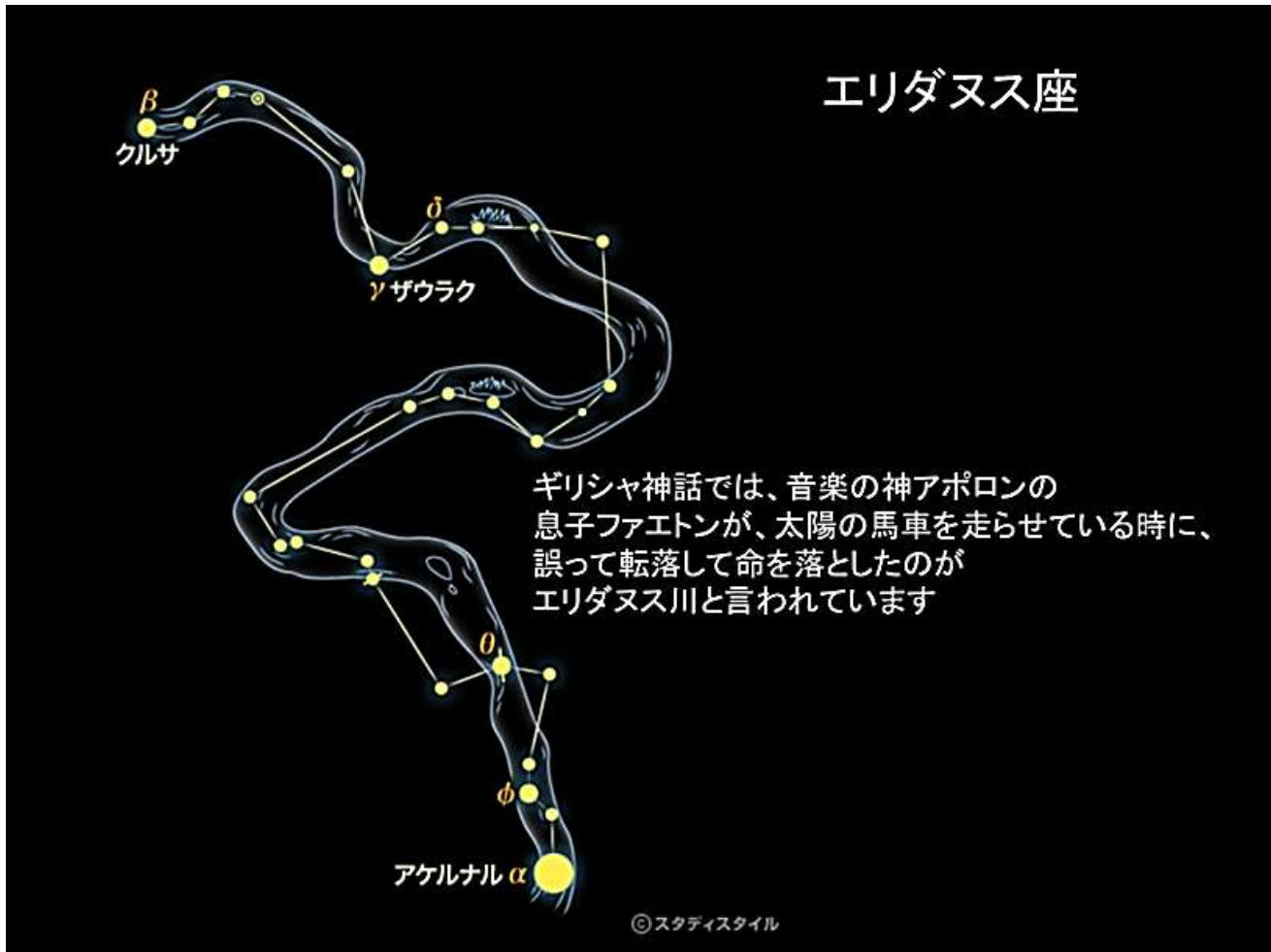
そこから、下の次元に向かって、フロアーを広げていきます。

くじら座の全体が光輝き始めると、ミラ星で苦しんでいたくじら達も、元気を取り戻したようです。

新しい美しい水が、このくじら座から、宇宙に向かって、流れ出していく様子も見えてきました。

これから私達は、ウミヘビ座とエリダヌス座を回り、天の川銀河の「生命の水」を生み出すシステムの完成をめざして、次の仕事にとりかかります。

第7章 豊かさ故に墮落した星の民



PART1 豊かさゆえに墮落してしまったエリダヌス座の星々

くじら座は、さまざまなドラマが秘められていた星座でしたので、私達も多くの事を学ばせていただきました。

くじら座が終わって、私達は「生命の水」をこの宇宙にめぐらせる働きをする2つの星座に関わる事にしました。

その一つがエリダヌス川の名前を持つエリダヌス座です。

この星座はとても細長く、その中にいくつもの星がありますが、まずこのエリダヌス座に着いて最初に現れたのは、エリダヌス座の中ほどにある三ツ星にいる魔法使いでした。

彼は周りを閉ざし、自らを五芒星の中で守り、エリダヌス座の流れに光を送っていました。彼は、一生懸命エリダヌス座を守っていたのですが、力尽きて守りきれなかったことを深く悔やんでいました。

「初めまして、私はエリダヌス座の魔法使いで、エレンギールと申します。
私は、エリダヌス座の星々は「生命の水」をこの近くの星々に分け与えてあげることが使命だと思っています。
このエリダヌス座の多くの星達は、星の間を流れてくる豊かな水のおかげで、水だけでなく鉱物資源にも恵まれ、とても豊かな星となりました。

しかし、そのために星の人々は感謝を忘れ、労働意欲を失って墮落してしまいました。
人々は快樂におぼれてしまい、楽しい生活を享受し、自然を浪費してゴミをたくさん出すような生活になってしまいました。
それによって「生命の水」も汚され、純粋性を失っていきました。

星の中には、破滅してしまった星や津波などの自然災害によって、人々の生活が滅びた星もあります。
私は、その様な星を見るたびにとてもつらい思いをしておりました。
そして、私1人でも、このエリダヌス座を守ろうと思い、祈り続けていました。」

確かにこの星座全体を見渡すと、川全体が薄汚れているようにも見えます。
本来であれば、私達はまずこの星座全体をきれいに浄化する事から始めるのですが、今回は、私達が川をきれいにしたところで、星に住んでいる人達が、今迄と同じように川を汚してしまっては意味がないので、最初に星々の様子を調べることにしました。

PART2 黒い羽の王

私達は、魔法使いのエレンギールにお願いしていくつかの問題がある星へと連れて行ってもらう事にしました。
最初に訪ねた星は、川の中央の曲りくねっているあたりの星で、黒い羽を持った存在が見えてきました。
小さな闇の渦巻きも背中についているようです。
近くには、悲嘆にくれた女神の姿もあります。

私達は、女神に近づくと、どうしたのですかと声をかけました。
女神は、私達を見て大変驚きましたが、魔法使いのエレンギールから私達の事を聴くと安心して話し始めました。

「私は、この星の女神ですが、大変困っていることがあります。
この星の王様は、豊かな星の資源をたくさん使って人々の生活を満ち足りたものにしてあげたいといつも願っていました。
王様は、人々がいつも喜びに満ち溢れている事が、自分自身の誇りだと仰っていました。
しかし、私は、星の民は与えられることに慣れ過ぎると、感謝を忘れ次々と要求をしてくることを知っていましたので、国民に過度の物を与えすぎると、国民が甘えてしまって働かなくなるからと言って、王様を諫めたのですが、聞き入れてもらえませんでした。
王様は、私のいう事も聞かず、次々と星の民が求める物を与え続けました。」

それでこの星はどうなったのですかと、私は女神に尋ねました。
「鉱物資源が失われ、星の豊かさがなくなってしまうと、さすがに王様も、星の人達に好きなものを与える事ができなくなりました。
星の民は、その事に怒りを覚え、私が豊かさを独り占めにしている、と言って私に対する反発を強めていきました。

王様は、自分達の星にはもう豊かさはないので、皆で勤勉に働き、また豊かな星を作ろうと、何度も呼びかけたのですが、星の民は、怒ってお城を壊して王様が大切にしていた物も奪っていきました。
そして、王様の数々の恩義も忘れて星を捨てて出て行ってしまいました。」

美緒さんがその話を聴いて怒っています。
「なんてひどい人達、王様の気持ちも考えずに。」
遥さんも言います。
「でも女神様のいう事も正しいわ、だってその通りになったんだもの。」
確かにそうです。

王様も女神も、その悲しみのために深く傷つき、王様の白い羽も黒くなり、闇のエネルギーにとらわれてしまいました。
今はこのエリダヌス座の小さな星の中で、長い間失望とともに佇んでいるそうです。

私達は、大天使達にお願いして、王様と女神の心を癒してもらう事にしました。
私達には、これ以上の事はできないようです。
ただマザー・クリスタルを活性化し、この星を次元上昇させていきますので、やがて王様の気持ちも変わるかもしれません。

PART3 クリスタルを育てる星 アケルナル星

次に向かったのは、エリダヌス座の一番下にあるアケルナル星です。

アケルナル星に初めてついた時、驚いたのは、もともと美しい水の星であるはずが、今はとても汚れて殺伐とした星のように見えることです。

洞窟の中にマスターがいて、私達を見つけると走り寄ってきました。

「あなたがたはどこから来たのですか、

最近、みずがめ座やくじら座の闇を光にかえ、星の次元を上げることができる魔法使いのグループがいると聞いたのですが、皆さんがそうなんですか。

皆さんは、私達の星を救うために来て下さったのですか。」

マスターは、早口でまくしたてます。

ここは葵さんが答えてくれます。

「マスターよ、落ち着いてください。

確かに、私達はみずがめ座やくじら座を闇から救い出し、星の次元を上げる事に成功しました。

しかし、私達全員が魔法使いではありません。

騎士団や女神達、巨人族もいる多くの種族の混合チームです。

そして、私達がここに来た理由は、この星を浄化して次元を上げる事ですので安心してください。」

「そうか、私の予感は、全て当たった。」

マスターは満足げに答えています。

「それでは、マスターよ、この星の事を教えてくださいませんか。」

「そうだ、それが大切な事だった。」

マスターは、木の切株の上に座ると、姿勢を正して話し始めました。

「みなさん、良く聞いてくださいね。

このアケルナル星は、まるで天使のように美しくて純粋な心を持った人達が暮らしている星でした。

そこに住む人達の天使のようなピュアな魂で、水の清らかさと美しさを守っていたのです。

しかし、人々は豊かさにおぼれてしまったために、純粋でピュアな心を失ってしまいました。

それにつれて、人々は水を汚し、星のエネルギーも低下して、この星は次元降下を起こしてしまったのです。

そして、この星にはもう一つ大切な特徴があります。

星の中にたくさんクリスタルがあるのです。

クリスタルを純粹でピュアなエネルギーで育てていくのもこの星の役割なのです。

しかし、心が汚れた人達にとっては、このクリスタルを育てるところか、あちらこちらから探し集めて、他の星の人々に売ってしまったのです。

クリスタルを守護していた天使は、その事に怒りを覚え、星の人々に大きな災いをもたらしました。」

マスターは、ここで言葉を止め、自分に注目を集めるようにみんなの顔を見渡します。

「それは、天使による怒り、この星による怒りだったのです。

ある夜、星空が一気に曇り、大粒の雨が落ちてきました。

その雨は3日3晩降り続き、ついには大きな洪水となってこの星を襲ったのです。

人々は、あふれる水に押し流され、悲鳴を上げながら、水の流れに消えていきました。」

そこまで聞けば、もう充分です。

このままではマスターの1人芝居が何時までも続きそうです。

「ありがとうございますマスター、これでこの星の事は大体わかりました。

それで、この星には闇に堕ちたマスターや問題がありそうな存在はいるのですか。」

「いや、ここにいるのは、私の家族だけですから、別に問題はないよ。」

私達は、少し拍子抜けしてしまいました。

どうもその時の洪水で、この星の人々は一層されたようです。

「それではこの星のマザー・クリスタルへ案内してくれませんか。」

「そうしたいところなんだが、実は私もどこにあるかは、よく知らんのじゃ」

美緒さんが少しムッとした顔をしています。

ユニバーサル魔法使いが美緒さんをなだめるようにして言います。

「大丈夫ですよ、私がマザー・クリスタルの場所はわかりますから。」

私達は、ユニバーサル魔法使いに地下に続く階段を開いてもらい、地下に降りていきます。

そこには、巨大なマザー・クリスタルだけでなく大小様々なクリスタルや色鮮やかなローズクォーツやアメジスト達がたくさん輝いています。

葵さん達が、「すごい！」と驚嘆の声を上げます。

クリスタルの場所に走りより、クリスタルを物色しているようです。

「ここのクリスタルを持っていった人には、大変な災いが降りかかるそうですよ。

たとえば洪水に会うとか。」

ユニバーサル魔法使いが、低い声で葵さん達にささやきました。

葵さん達はおどろいて「きゃー」と叫び手にしていたクリスタルを手放しました。

「ユニバーサル魔法使いさん、それは本当ですか」と遥さんが聞きます。

「嘘ですよ。」とユニバーサル魔法使いは澄ました顔で言います。

「そうですよね、でも、このクリスタルを持っていったら、この星の人と一緒にですね、私は持っていけない。」

「そうね、私も。」メンバー達は、手にしていたクリスタルを大地に置くと立ち上がりました。

「それではマザー・クリスタルの活性に入りますよ。」と私は声をかけます。

この星のマザー・クリスタルは、ナタージャという名前らしいです。

私達は、ナタージャを虹のワンドで活性化していくと周りのクリスタルを輝かせるように、マザー・クリスタルは美しく輝き始めました。

アケルナル星が、クリスタルの輝きと共に次元上昇していくと、空から白い馬に乗った大天使ミカエルのようなマスターと女神が現れました。

お名前がラザエルという天使様のようです。

まさにマスターの話の中にあったクリスタルを守護していた天使のようです。

彼らは、アケルナル星を守り導いていたようですが、人々の墮落によって、星が次元降下していくと、自分達の次元とアケルナル星の次元が異なってきたために、アケルナル星にすることができなくなりました。

アケルナル星が、次元上昇して元の位置に戻ってきたために、また彼らが星に戻る事ができたようです。

PART4 クルサ星とエリダヌス座の次元上昇

大天使ラザエルとともに、私達は、エリダヌス座の正反対にあるクルサ星へと向かいます。私達が、クルサ星につくと、このクルサ星から出てきたのは、とんがり帽子をかぶった魔法使いです。

ここには、人のような生命は全くいないようで、星が荒らされている様子もありません。とても美しい星です。

この星には、フェアリーやユニコーン、ペガサスなどがいます。

まるで樂園のような星で、この星だけは次元降下を起こしていなかったようです。
それもそのはずですね。

この星には、人々もマスターも初めから住んでいない星だったからです。

私は、とんがり帽子の魔法使いに、挨拶して残った星を尋ねることにします。

私達はエリダヌス座の星々を回り、一通り問題を解決しましたが、驚いたことに、この星座には、現在、星を管理しているマスターや魔法使い以外、人々が住んでいないという事でした。

多くの星が無人の星になっているのですが、「生命の水」を守るには、その方がよいのかもしれない。

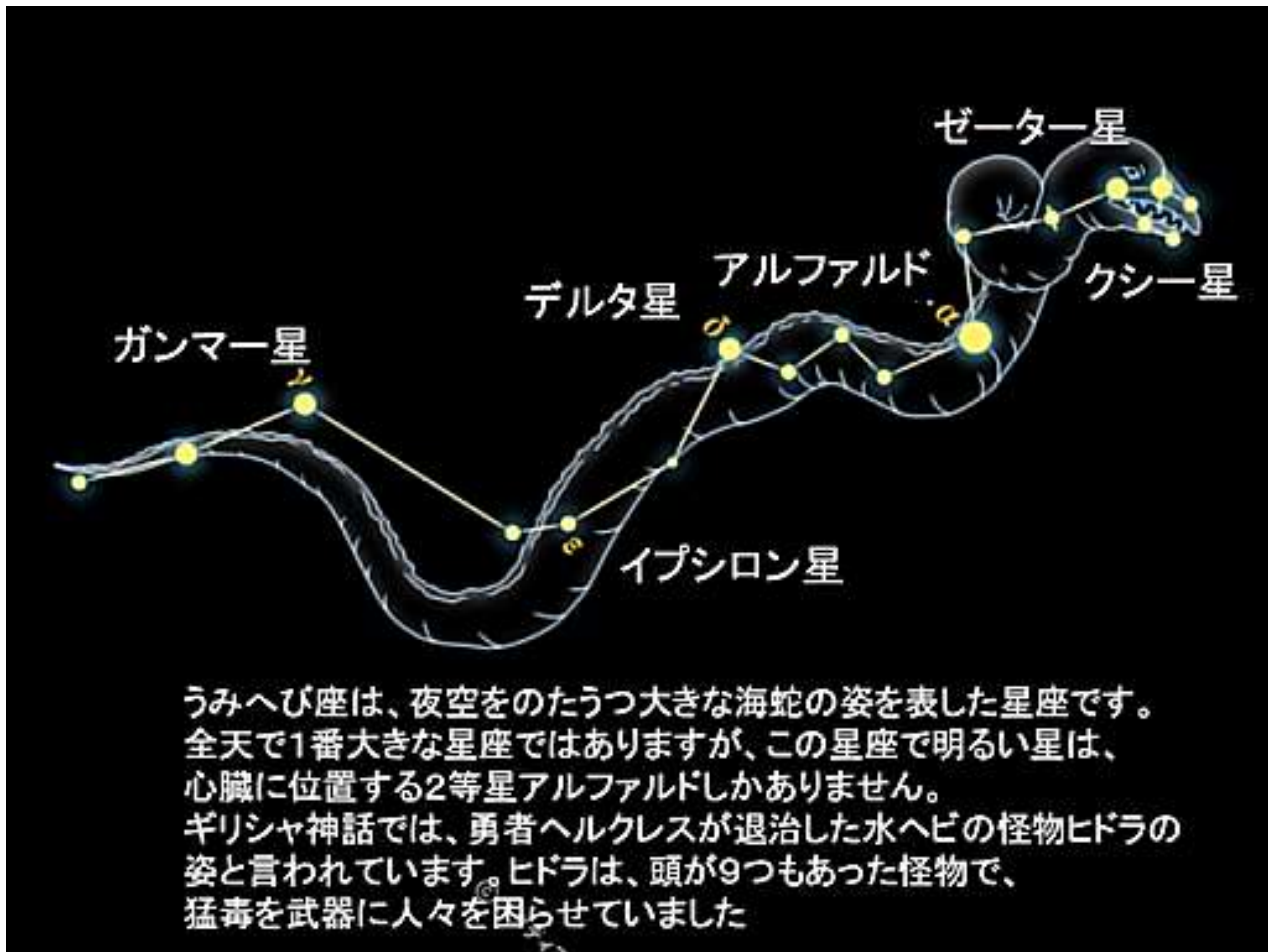
私達は「生命の孢子マー君」と魔法使いにお願いして、エリダヌス座の浄化に入りました。

彼等の力で、エリダヌス座の流れはとても清らかになり、美しく輝き始めました。

私達は、エリダヌス座の浄化と活性が終えた後に、偉大なる創造主達の力を借りて、星座全体の次元上昇を行いました。

これでエリダヌス座も大丈夫そうです。

第8章 うみへび座の王様と息子達



PART1 王様と3人の王子様

私達は、最後にうみへび座に向かうことになりました。

うみへび座は、私達の騎士団でも、ヒュードラ様が率いる優秀な騎士団がある星座ですが、星座の中の様子はあまり思わしくないようです。

前回の星のツアーの時も、王様が弱っていて統率がとれていない事をうみへび座のマスターが伝えてきました。

今回、私達がうみへび座に降り立つ時も、うみへび座の中で内乱が起きているからという事で、海へび座のしっぽのところにある星へと降り立ちました。

このうみへび座の問題は、主に王様の3人の子供達による権力争いが原因となっているようです。

それに加え、外部から介入してきた闇の力が、その混迷を深めているようです。

まず私達は、ユニバーサル魔法使いの力によって、海へび座全体に浄化の神聖幾何学を描い

てもらい、星座全体の浄化を行いました。

そして王様の星へと向かいます。

このうみへび座の頭部の目にあたるところが王様の星です。

王様は、力なく横たわっているようにも見えます。

周りに側近の貴族達も控えていますが、なすすべもなくただ見つめているようです。

王様は私達が来るのをずっと待っていてくれたらしく、私達を歓迎してくれます。

私達も王様に敬意を表し、この星座の浄化に取り掛かることにしました。

王様は、力ない声で私達に語りかけます。

「皆さんの素晴らしい働きは、騎士団のヒュードラから聞いております。

本当にありがとうございます。

今回も、「生命の水」をより良いものにするために、水に関わる星座に入って頂いたと聞いております。

本当にありがとうございます。」

王様は、ここまで言うのと急に咳込んでしまいました。

側近の人が、王様に安静にするように言って、王様を横たえようとするのですが、王様はその手を払いのけ話します。

「これは、私からのお願いです。

私の子供である王子達は、あまり仲が良くなくて争ってばかりです。

TAKESHI さん達の様にこの宇宙を良くしようなどとは考えずに、自分達の利益の事ばかりを考えています。

しかし、それでも私の大切な息子達です。

どうか、子供達を助けてあげてください。

そして子供達の事を心配して苦しんでいる女王の事も助けてください。

どうか、お願いします。」

王様はそこまで言うともた咳込んでしまいました。

私は王様の手を優しく握って言います。

「王様、あなたの願いはしっかりと聞き届けました。

私達が出来る限りの事は致しましょう。

どうか、体をお安めになって元気になられてください。」

王様は、目から涙を流して喜んでいます。

私達も退室して、うみへび座の騎士団と共に、星々を回る事にしました。

PART2 うみへび座の長男

私達は最初に、王様の星の右横にある星へと入りましたが、一面荒野で荒れ果てています。わし座騎士団やペガサス騎士団、おおかみ騎士団達もうみへび騎士団と共に、星の捜査を行いました。が、際立って問題があるところが見当たりません。

しばらくすると、おおかみ騎士団が、とても汚い部屋へと続く入口を見つけました。まさかこんな所には、誰もいないだろうなと思いつつも入っていくと、よれよれになった男性とゴミのように汚れたクリスタルが見つかりました。

美緒さんは、その部屋を見てあきれた声で言います。

「地球の男性達でも、ここまできたない部屋に住んでいる人は、そんなに多くないわよ。」

うみへび座騎士団のヒュードラに調べてもらおうと、驚いた事にこの男性が王様の長男でした。それを知って、宇宙の光のメンバー達は驚いています。

美緒さんも一言、「あり得ない！」と言って絶句します。

私達は、すぐにマー君に王子様とクリスタルをきれいにしてもらい、浄化と活性を行いました。

私達は、この近辺をさらに探すと、荒野に1人たたずむ女性が見つかりました。

ヒュードラ達が、荒野に佇んでいた女性のもとに向かい調べると、彼女はマドリアと呼ばれる王様の最初の奥様であり、この王子様のお母様でした。

私達は、お母様に、一体何があったのか話を聴きました。

「私は、このうみへび座の王様の最初の王妃でした。

先ほどの子は、王様と私の間に生まれた最初の子供だったのですが、彼は星を統治する事にあまり興味を持たず、人から隠れるようにして生きてきました。

その事が、王様の気分を害したのか、王様は、この子をあまりかわいがることをせずに、他の女性を王妃に迎え、次の子供達を生んでもらったのです。」

美緒さんと遥さん達が、「え〜」という顔をしています。が、王様の立場としては仕方がない事です。

「王様は、決して私達を嫌っていたわけではないのですが、新しい王妃の意見を聞き入れて、私達をこの星に移したのです。

しかし、王様の長男であるこの子供が大変かわいそうで、私も途方に暮れています。」

これは難しい問題です。

私は、うみへび騎士団のヒュードラに、この件について聞いてみました。

「私も、長い間、彼の事を見守り、彼の教育もお手伝いさせてもらいましたが、長男の立場であれば、星々の統治を期待されても仕方がないことです。

しかし、彼自身が、その様な生き方を望んではいないので、王様のもとにいるよりかは、1人で好きな事をしていた方が幸福であるかと思います。」

確かに厳しいようですが、自分に合わない人生を強要されるよりかはましですが、今の彼の姿はあまりにもひどすぎます。

私は何か原因があるのではないかと思い、ユニバーサル魔法使いに調べてもらいました。

彼のエネルギー状態を調べていた魔法使いは、私達に報告をしてきました。

「彼のエネルギーの中に、新たな王妃様のエネルギーが見つかりました。

おそらくどこかの魔法使いにお願いして、この長男が能力を発揮して、王様の後を継ぐ事がないように、彼の気力を失わせ、何もできないように魔法をかけている可能性があります。」

「それでは、その魔法を解いてあげる事ができますか。」

私の問いにユニバーサル魔法使いは、首を横に振ります。

「いいえ、魔法を解くためには、彼の強い意志が必要ですが、彼もこのような状態を望んでいます。

自分自身は、なんの能力もなく人の役に立つ事ができないと考え、誰にも見つからないように暮らしたいと考えていますので、このような生活を送っているのです。」

その言葉を聴いて、長男のお母さんは、顔を手でおい泣き出してしまいました。

お母さんも、子供を立派に育て、父親の仕事を手伝わせたいと願っていたようです。

私は、うお座でエロースからもらった「生命のしずく」を思い出しました。

この「生命のしずく」なら長男に少しでも気力を奮い立たせ、元気にしてくれるかもしれないと考えたのです。

私は長男に、あなたの気力を高める薬があるけれど使ってみませんかと言いました。

お母さんも横で、息子が再び元気になれるのならお願いしますと訴えています。

長男は、お母さんの様子を見て少し考えていました。

そして、「お母さんがそんなに言うのなら飲んでもいいよ。」とつぶやきました。

私達が、渡した「生命のしずく」を飲んだ長男は、かけられていた魔法も解け、瞳も輝いて元気になってきました。

私はヒュードラに頼んで、彼に似合う服も準備してもらいました。

やはり身なりからきちんとしなくてははいけません。

私達は、その間に、この星のマザー・クリスタルを見つけ活性を行います。

ユニバーサル・エンジェルや魔法使い達にも手伝ってもらい、この星を次元上昇させていきます。

すると星も光り輝き、花が咲き乱れる森が現れ、そこにユニコーンやホビット、フェアリー達の姿も見えてきました。

もともとはとても豊かな星だったようですが、王妃の悲しみの涙で、星のエネルギーが低下し次元降下を起こしたようです。

私達は、一度長男とそのお母様を連れて、王様のもとに戻りたいと思っていますが、すでに王様の横には新しい王妃がいらっしゃるのです、どうしたものかと思案しました。

王様にお尋ねすると、戻ってくる事を願われている様なので、長男と前王妃をつれて一緒に戻ることにしました。

王様の星に戻ると、幸いなことに、王様は王女様と王子様を心優しく迎えてくれました。

私達もその様子を見て安心しましたが、これから長男がどの様になっていくのか、心配です。

PART3 戦闘中の星に降り立つ、アルファルド星

私達は、王様の子供を訪ねて、次のアルファルド星に向かいました。

アルファルド星に近づくと、ヒュードラがここでは戦争が起きているので、しばらく様子を見ましようと言いました。

私は、わし座騎士団やペガサス騎士団に偵察に行ってもらいました。

彼等が戻って来て報告をしてくれました。

「この星では、空をレーザービームが飛び交い、砲撃と爆発があちらこちらで起こっているようです。

星を侵略しようという者達は、いくつかの宇宙船を使って、この星に攻撃を行っています。

地球では、彼らの兵士が、手に銃をもって、攻撃しています。

星の人々は、地下の洞窟のようなところに逃げています。」

ヒュードラに言わせると、この戦いは最近始まったようで、自分達も対処したいのだが、この星の王子様が、この戦争は、自分達の問題だと言い張り、私達の救援を拒んでいるのです。しかしこのままの状況では星の人々は、全滅させられてしまう事は明らかです。なにか理由がある事は確かですが、まず襲われている人々を助けなければなりません。

私達もそのまま星に降りることは危険なので、まずこの戦いを起こしている連中をかたづけるために、大きな光のマカバで星を多い、1か所だけ捕獲のための出口を作って、彼らを閉じ込める作戦をとりました。

マカバの中には、騎士団や女神達によってたくさんの光を送ると、マカバによってその光は反射し合い、さらに増幅されて、マカバの中を照らします。ユニバーサル魔法使いも、神聖幾何学を描き、彼らの心に愛のエネルギーを増幅します。

侵略者達は、まぶしい光に弱いので出口に向かって殺到し、我先にと罠の中へと入っていきます。その場所では、騎士団のメンバーが待ち構えており兵士達を捕えています。

そして、宇宙警備隊を呼んで、侵略者達を引き渡していきます。この部隊は、大型の戦闘兵器などを持つかなり強力な部隊ですが、宇宙の海賊と呼ばれるクラシャー連合の部隊のようです。

この部隊が一掃されると、私達は星に降り立ちました。そしてこの星の王子様を呼び出し一体どうしたのかと尋ねました。

「私は、この侵略者は王様の長男達が、私達を憎んで、うみへび騎士団といっしょになって、仕掛けてきた戦争ではないかと思っていました。そのために、私達で撃退できるだろうと思っていたのが、とんでもない間違いでした。これは、宇宙海賊達の仕業だったのですね。私は、何か幻想を見せられていたようです。このままでは、私達の星は壊滅して、うみへび座の王様にも大変な迷惑をかけるところでした。私達の星を助けてくださってありがとうございます。」

王様の次男にあたる若者は、この星を任されていたようですが、大変な争いにまきこまれていました。私達は、マー君達に頼んで戦争によって汚れた河川や海をきれいにしてもらう事にしました。私達の騎士団も、襲われた星に降り立ち、傷ついた人々を助けたり、壊された建物の修復作

業に入りました。

わし座騎士団が、ケンタウルス座の騎士団やおうし座の騎士団、カペラ星の医療班などにもすぐに連絡してくれて、天の川銀河のたくさんの騎士団や医療班が、アルファルド星にやってきてくれました。

私達は、救援活動は騎士団にまかせて、マザー・クリスタルの場所を尋ねました。
マザー・クリスタルは空にあるようです。
私は虹の女神イリスに頼んで虹をかけてもらいます。

空にあるマザー・クリスタルを活性化すると、美しい女神とクリスタルを守るニンフが現れました。
そして、このマザー・クリスタルの下にサブクリスタルがあり、地中にもサブクリスタルがある立体構造のクリスタルの配置であることを教えていただきました。

その3つのクリスタルをどんどん活性化していきます。
するとこの立体構造のクリスタルの特徴である「生命創造」の機能が回復し、この星に生きる人が次々とクリスタルの中から生まれてきました。

アルファルド星は次元上昇を行うと、星全体が美しい輝きに満たされていきます。
この星の王子様も、喜びながら見えています

PART3 穏やかな尻尾の星

私達は、3人目の王子に会うために、うみへび座の尻尾にある星へと向かいました。
ここは、私達が最初に降り立った星で、他の星に比べても大変穏やかで静かな星です。
私達が、再び降り立った事を知り、この星を統治する王子様が出てこられました。
彼は、3人の王子の中で、一番年下の3男に当たりますが、3人の王子の中では一番落ち着いているようにも見えます。

「TAKESHIさん、そして皆さん、本当にご苦労さまでした。
皆さんの活躍は、ヒュードラからも聞いております。
長男の心を立て直してくださった事、次男の星の戦争を終結させてくださった事を心から感謝いたします。
しかし、これだけうみへび座の星々が荒れ果てていれば、皆さんもあきれてしまったことで

しょうね。

本当に申し訳ありません。

うみへび座の人達は、もともと争う事が好きなのです。

私は、それではいけないと思い、両親や兄弟から少し離れた所で、平和に満ちた星を作ろうと努力してきました。

そして、このような美しい星を保ってきました。」

私達も、王子と一緒に、海が見える高原で、草の上に座り、自然の美しさに見入っています。

「星は何もしなければ、それだけで美しいものです。

人間が星を汚したり、星の生命を軽んじたりする事がないように、私は気をつけています。

確かに、星が栄える訳ではないのですが、星と人々の心の美しさは保てます。」

私達は、この王子こそが、これからのうみへび座を担っていくにふさわしい王子ではないかと思いました。

この王子といると、私だけでなく、皆の心も安らいでいくようです。

私達は話し終わると、小高い丘の上から歩き出し、王子様とともにマザー・クリスタルへ向かいます。

メインのマザー・クリスタルは、海の上に浮いているようにも見えます。

そしてそのクリスタルを囲んで3角形を作るように、サブクリスタルが配置されています。

私達は、いつもの手順でクリスタルを活性化しこの星の次元上昇を行います。

さてこれで、うみへび座の主要な星はすべて活性され次元上昇して、本来の働きを取り戻してきました。

次は、うみへび座全体を一度に次元上昇していくことになります。

偉大なる創造主とユニバーサル・エンジェルの力によって、私達はうみへび座をこの宇宙の「生命の水」をつかさどる星座として、再び光の星座へと戻して行きます。

女神アフロディーテも、うみへび座の星のひとつひとつに光を入れていきます。

そして今回の星のツアーで大活躍してくれたユニバーサル魔法使いが、大空で大きな神聖幾何学を描くと、うみへび座がさらに大きく輝き次元上昇していきます。

このうみへび座を光の星座に戻す事によって、水にかかわる星座達の多くが、通常の働きができるようになりました。

創造主から送られる大切な「生命の水」も、みずがめ座と南のうお座によってこの天の川銀河に導かれ、くじら座によって物理的な宇宙に送られます。

そしてエリダヌス座やうみへび座によって、天の川銀河の各地へと送られていくのです。

「生命の水」の働きが、順調にこの天の川銀河に満ちることにより、また新たな生命創造のドラマが始まることでしょう。

まさに、星の人々の人生ドラマを垣間見るような星の物語でした。

私達は、最後に、うみへび座の王様にご挨拶をして地球に帰ることにしました。

もちろんうみへび座の王様には、次の王様としてこの安らぎに満ちた王子を推薦したことは言うまでもありません。